

2022年度 社会福祉法人 麦 事業総括

目次：社会福祉法人麦 2022年度法人本部事業総括

- 1、 法人運営
- 2、 事業計画
- 3、 地域公益活動
- 4、 人材育成及び確保

2022年度事業報告（利用実績等）

- 1、 麦の里 利用契約者の状況
- 2、 七色の麦 利用者の状況
- 3、 生活介護麦の里
- 4、 共同生活援助七色の麦
- 5、 その他の職員配置
- 6、 職員総数
- 7、 職員 各種資格取得の状況
- 8、 新型コロナウイルス感染症の影響

文章総括

- I. 全体のまとめ
- II. 仲間たちの日課と活動スタイル
- III. グループ別 活動のまとめ
- IV. 作業活動について
- V. 行事・その他の活動
- VI. 施設運営について

仲間三行総括

- ① 麦の里
- ② 七色の麦

事業総括

- ① 麦の里
- ② 七色の麦

活動報告書

社会福祉法人表 2022年度法人本部事業総括

1、 法人運営

1) 理事会・評議員会

理事会 2022年5月26日	2021年度事業報告案 2021年度決算案 監事監査報告 育児・介護休業に関する規則改正案 理事長業務報告
評議員会 2021年6月23日	2021年度事業報告 2021年度決算 監事監査報告
理事会 2022年11月10日	9月末予算執行状況及び補正予算案 欠勤を繰り返す職員に対する給与及び昇給並びに制裁についての取り決め 特定技能職員の一時帰国時休暇の取り決め 業務継続計画（BCP）について 理事長業務報告
評議員会 2022年11月10日	9月末予算執行状況及び補正予算
理事会 2023年3月23日	2月末予算施行状況と補正予算 七色の麦特定費用の変更について 2023年度事業計画案 2023年度予算案 第2麦の里施設整備補助金の状況について 業務継続計画について 次期理事・監事候補者について
評議員会 2023年3月23日	2月末予算施行状況と補正予算 七色の麦特定費用の変更について 2023年度事業計画案 2023年度予算案

2) 監事監査

2022年5月19日に実施

2、事業計画

1) 短期計画（1年～2年）

第2麦の里（仮称）施設整備国庫補助金申請を行いました。
青色の麦定員増のための増築を検討しましたが、費用が掛かりすぎるため断念しました。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、ヘルメット 84 個（麦の里 90 個・七色の麦 24 個配備完了）、毛布 30 枚、シート 30 枚、ブランケット 100 枚を追加購入しました。保存食、保存水については、計画に沿って入替を行いました。

麦の里全館 LED 化（1 階 2022 年度）を完了しました。全館 LED となりました。

麦の里乾燥機をガス乾燥機に変更及び設備工事を行いました。

2025 年 10 月 Windows10 サポート終了に伴いパソコン更新計画を策定。2023 年から 3 年計画でパソコンを更新する計画としていますが、半導体の高騰等により PC の値段が上がっているため、状況を見ながら進めていきます。

共同募金会の助成を受けた軽貨物にチャイルドロックがないため、チャイルドロック付きの軽貨物が必要となった。現在の愛称ちびたは、エンジントラブルがあり使用できなくなる見込みのため、軽貨物車を更新する。→2023 年度中 BCP（業務継続計画）を職員主導で策定しました。

2) 中期計画（3 年～5 年）→引き続き進めます。

2025 年までに第 2 麦の里の開所を目指します。2022 年度に国庫補助金申請を実施。

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

3) 長期計画（5 年以上）→引き続き進めます。

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

4) 事業計画の繰り上げ実施

緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合があります。

国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

3、地域公益活動

福祉有償運送事業の実施。→対象者がおらず実施していません。

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代 1 食 275 円を 230 円に軽減）。

→継続して実施しています。

家族の高齢化などの理由で通院や生活上の困りごとに対し、麦の里仲間の通院支援、生活支援（行政手続き・ペットの通院・火葬等）を実施。→年々対象者が増えています。ほぼ毎月実施となりました。

近隣住民との交流。地域行事への貢献。→コロナにより中止が相次ぎました。

七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）→計画できませんでした。

4、人材育成及び確保

研修への参加、資格取得の支援を実施します。

- ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・感染症・食中毒予防対策委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・書籍等配布研修の効果測定を行います。→「障タイムズ」おおよそ10号毎にレポート研修を実施。今年度は2回実施しました。
- ・資格取得に向け、外部研修への参加支援を実施します。→今年度は、職員の退職、休業が相次ぎ日程調整できませんでした。
- ・事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。→年度当初に採用しましたが、採用人数を超える退職者があり、実現しませんでした。年度末に採用したことでトントンとなりました。

2022年度事業報告(利用実績等)

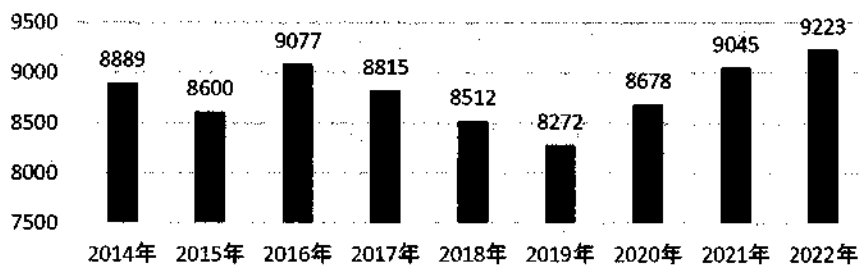
1、麦の里 利用契約者の状況

(内3名は利用実績なし)

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女			1					1
その他 県内市町村	男		1	12	10	2		1	26
	女		2	5	3	3	1	1	15
愛知県外	男		2						2
	女	1	2						3
合計	男		3	12	10	2		1	28
	女	1	4	6	3	3	1	1	19

年間利用者数の推移(2020年度以前は就労継続支援B型利用者含む)

生活介護



2、七色の麦 利用者の状況

入所メンバー

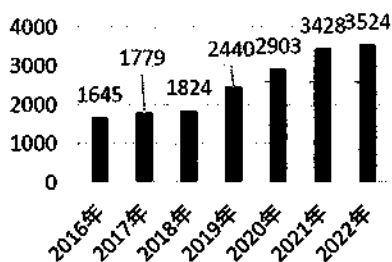
2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女			1					1
その他 県内市町村	男		1	2	5				8
	女			1	2	1			4
愛知県外	男								
	女								
合計	男		1	2	5				8
	女			2	2	1			5

体験入所メンバー

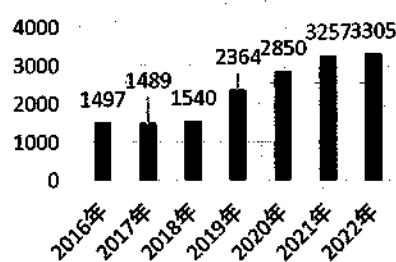
2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女								
その他 県内市町村	男			6	1	1			8
	女		1	2					3
愛知県外	男		1						1
	女								
合計	男		1	6	1	1			9
	女		1	2					3

年間利用者数の推移

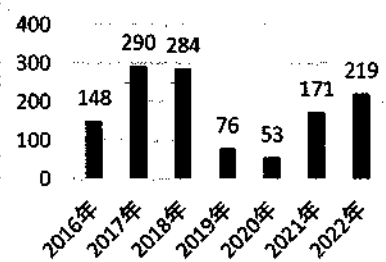
七色の麦総数



七色の麦レギュラー



七色の麦体験利用



3、生活介護麦の里

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開所日数
開所日数	22	21	24	22	23	22	24	22	21	22	21	25		269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	40	40	40	39	39	39	39	40	41	41	42	43	40.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	770	725	832	744	788	761	743	754	761	729	736	880	9223
利用率(%)	87.5	86.3	86.7	84.5	85.7	86.5	77.4	85.7	90.6	82.8	87.6	88.0	85.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	11	14	20	17	17	13	18	11	12	22	14	14	183

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院者数		1					1					1	
延長支援者数	2		1	1	2	1	1	2	4	2	1	1	18

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	19	3	3	1		2	28
	女	8	3	1		1	5	18
内新規利用者数		1	1				2	4
内退所利用者数					1			1

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在			1	4	7	6	25	43
	3/31現在			1	3	6	9	27	46

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		3	12	10	2		1	28
	女	1	4	6	3	3	1	1	19

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	40	40	40	39	39	39	39	40	41	41	42	43	40.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	1360	1262	1459	1293	1308	1350	1308	1017	1323	1249	1289	1570	15788

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	693	651	775	682	677	707	687	550	699	635	656	784	8196

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	11	12	11	10	11	10	10	11	12	11	12	11	11.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	68	78	67	67	70	72	64	51	72	74	70	81	834

医療的ケア	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
	吸引(口腔内)	4	酸素吸入	1	服薬管理	18
吸引(鼻腔)	3	モニター管理		創傷処置		
吸引(気管切開)		じょくそうの処置	1			
経鼻経管栄養		疼痛管理				
胃ろう栄養管理	4	インスリン管理				
点滴		導尿	1			
ネブライザー	3	浣腸				
気管切開のケア		摘便				

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
理学療法 相談及び対処	ストレッチ指導	9	筋緊張の緩和等	8		
	補装具等の調整	11	自助具の開発等	7		

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	48	48	48	48	46	45	44	45	47	48	47	46	46.7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
サービス管理責任者	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
生活支援員	21.2	22.2	22.8	22.2	21.0	21.1	19.3	19.8	21.5	21.1	21.3	21.3	21.2
医師	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
看護師	1.4	1.4	1.4	1.5	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
理学療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
作業療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
直接処遇職員	22.9	23.8	24.4	23.8	22.7	22.8	21.0	21.4	23.1	22.8	22.9	22.9	22.9
事務員	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下切り下げしています。直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、共同生活援助七色の麦

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	24	22	26	23	22	22	23	25	21	22	21	24	275

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13.5
体験利用者数	2	1	7	5	6	6	8	4	8	7	8	9	5.9

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	289	248	310	298	277	291	259	274	254	258	254	293	3305
体験延利用者数	24	19	21	11	12	25	24	13	17	18	18	17	219
合計延べ利用者数	313	267	331	309	289	316	283	287	271	276	272	310	3524
利用率(%)	86.9	80.9	84.9	89.6	87.6	95.8	82.0	76.5	86.0	83.6	86.3	86.1	85.4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援対象者	4	4	7	7	8	8	10	7	10	9	10	11
内強度行動障害						1	2	2	2	2	2	4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療連携者数													

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
利用者の住所地	男	6		1	1			8
	女	2		1		1	1	5
内新規利用者数								
内退所利用者数		1						1

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	その他	合計
体験利用者の住所地	男	6	1	1			1	9
	女	2	1		1			4

※今年度体験利用者

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在			1		3	1	9	14
	3/31現在					3	1	9	13
体験・支援区分	人数					2	2	9	13

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		1	2	5				8
	女			2	2	1			5

2022.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
体験利用者 年齢構成	男	1	6	1	1			9
	女	1	3					4

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	28	28	30	30	29	28	26	26	27	28	28	29	28.1

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
サービス管理責任者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
生活支援員	4.6	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3
世話人	3.4	3.3	3.6	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4
夜間支援員	2.0	1.8	2.0	2.0	1.8	1.9	2.0	1.8	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。

5、その他の職員配置

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
運転手	3	4	5	6	7	8	4	4	4	4	4	4	4.8
ハウスキーパー	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	2.8

6、職員総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
職員実数	55	55	56	55	55	54	54	55	55	56	56	56	55.2
内嘱託医	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
内派遣職員数(ルバー含む)	2	2	2	2	2	2	3	5	5	5	4	4	3.2
休職職員数	2	2	2	3	2	3	3	2	2	2	2	2	
月全休職員		1									1	1	
内月途中採用職員数							1			1			
内月退職職員数				1	1	2			1	1		2	
給与支払い職員数	49	49	50	49	50	48	47	47	47	48	48	49	48.4

2022.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
正職年齢構成	男			6	1	3		10
	女		1	4	3	2	2	12

2022.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
パート年齢構成	男		1	1	1	3	3	9
	女		1		4	5	7	17

※月全休職員含む

2022.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
正職在職年数	男	2	2	1	1	2	10
	女	3	2	1		2	12

* 表の里パートから正職員採用した場合、期間は継続で計算

2022.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
パート在職年数	男	1		2		6	9
	女	2	3		2	1	17

※月全休職員含む

7、職員 各種資格取得の状況

	正職員	パート		正職員	パート	派遣
社会福祉士	1		サービス管理責任者	6		
介護福祉士	9	1	相談支援専門員	4		
精神保健福祉士			理学療法士		1	
ヘルパー1級	1		作業療法士		1	
ヘルパー2級	2	7	看護師・准看護師	1	1	
介護職員初任者研修	1	1	視覚障害者移動介護従事者養成研修	1	1	
強度行動障害・基礎	7	2	同行援護従事者研修			
強度行動障害・実践	7	2				

8、新型コロナウイルス感染症の影響

利用者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陽性者数	1			2	1	1		15	1	1			22
濃厚接触者数					8			24	2	2			36
利用自粛者数		1	1		1			2	3				8
利用自粛延べ日数	2	1	1	5	39	3		179	19	29			278

※陽性者・濃厚接触者・利用自粛者数は同一月内でWカウントの場合もある。

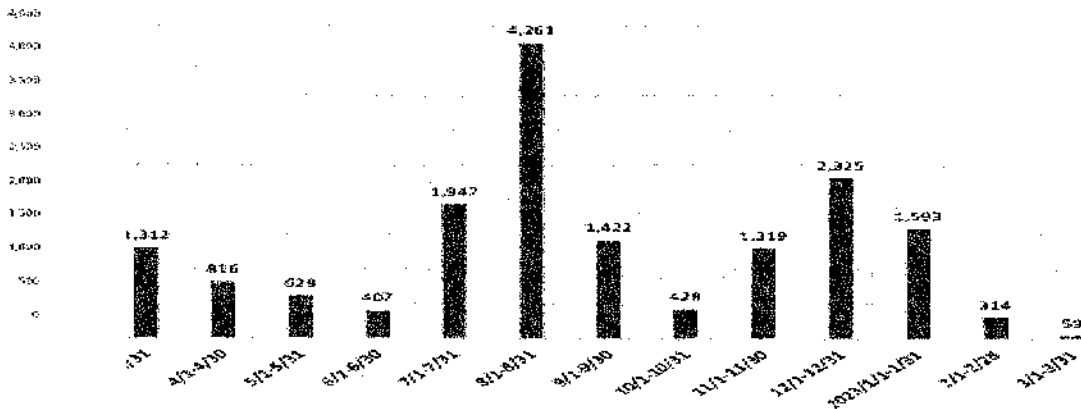
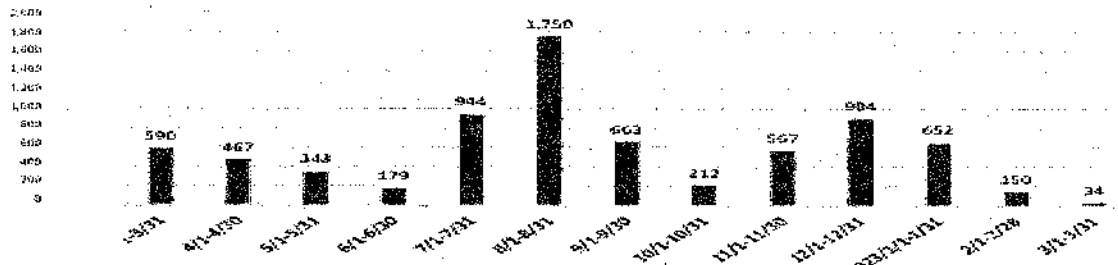
職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陽性者数		2		1	1	2		11	1				18
濃厚接触者数	1		1	1				1	1	1			6
子の看護	1			1	1			1					4
休業者数	1	2	1	3	2	2		13	2	1			27
施設閉鎖休業								41					41
休業延べ日数	8	8	1.5	14	6	8		49	3.5	4			102

参考 県資料から抜粋

障害者施設における新型コロナウイルス感染者数の推移（2023/3月

～2023/3月末現在）

区分	3/1-3/31	4/1-4/30	5/1-5/31	6/1-6/30	7/1-7/31	8/1-8/31	9/1-9/30	10/1-10/31	11/1-11/30	12/1-12/31	2023/1/1-2/31	2/1-2/28	3/1-3/31
施設・事業所数	590	467	343	179	944	1,750	683	212	967	904	652	150	34
感染者数 (利用者・職員)	1,312	816	629	407	1,947	4,261	1,422	428	1,319	2,325	1,593	314	59



2022年度 文章総括

I. 全体のまとめ

開所 19 年目を迎えた麦の里の仲間たちは

- ・今年度は新卒の仲間はおらず、43 名でスタートしました。
14 年間、麦の里に通っていた療護の仲間が、2022 年 3 月にお母様が急逝され、自宅から近い「ホーム」と「生活介護」に 6 月に移籍されました。その方は、2008 年に新卒で麦の里に通所し、グループホームでの体験利用を重ねていた方なので、できれば『七色の麦』に入所を検討していたのですが、現在の麦の里の状況では難しいという判断からの退所でした。14 年間利用されていた方の退所は、現場にも大きな影響となり、「麦の里」「七色の麦」の将来に向けての課題を、改めて考えさせられるできごとでした。
- ・一方で、新たに 4 名加わりました。11 月に視覚障害の方が 1 名、週に 2 日療護で活動しています。12 月には中途障害の方が 1 名、自宅で入浴ができず、自宅の風呂場をリフォームする間だけ、週に 2 回、入浴利用のために通所しています。
また、2 月に他の事業所から 1 名移籍され、3 月に 1 名新卒の方が 1 名増えました。
更に、新年度には新卒の方 1 名、新規利用の方が 1 名増えます。仲間が増えることで、グループの人数も増えていきます。今後、グループを増やし、グループ分けを再考していくこと、そして麦の里の敷地の中だけでは、収まらないこと・第 2 麦の里に向けてホームの 1F を使うなどしていく必要があると感じています。

グループホームについては…

- ・グループホームでは昨年度に引き続き、4 泊 5 日を継続し、9 月より月に 2 回の 5 泊 6 日を実現しました。定期的な体験利用を継続。体験利用の仲間も新たに 2 名加わりました。他にも利用希望の仲間がおり、面談は終わっていますが、体験利用を実際に取り組みしていない仲間もいます。体験利用を開始できるように体制整備をしていきます。
- ・1 月にグループホームの保護者会を開きました。親御さんから様々なお話を頂き、とても貴重な機会になりました。継続して開催できるようにしていきたいと考えています。

コロナウィルス感染症クラスター発生を振り返って

- ・11 月に新型コロナウイルス感染症に仲間・職員とも感染し、施設閉所をする事態となりました。そのような中、陽性になった仲間が自宅待機ができない仲間については、グループホームで生活するという対応をしました。感染対策をしての対応でした。結果としては、職員・仲間合わせて 33 名が感染したということでした。調子が悪いことが続き、訪問診療を受けた仲間もいましたが、全員が 12 月中には復帰しました。再開してから

は、食堂と作業室に分かれて食事をとる、こまめな手指の消毒など感染対策を周知徹底しています。

職員体制の面から振り返ると

- ・ 4月から、正職員1名と準正職員2名、パート職員2名を増員。『グループホーム』365日開所を目指し、職員の募集に励みました。けれども、30代、40代の職員の確保がなかなか進まない中で、2021年度採用した「特定技能実習生」職員の紹介で【特定技能実習生の受け入れ拡大】を決定。年度末3月半ばから、1名増えました。
- ・ また、まったく経験のない中でチャレンジしたいという30代と50代を年度後半から「派遣職員」として採用。2023年度以降にかけて、「直接契約職員」に移行していただいで採用していく予定です。
- ・ 職員の増員を目指している中で、正職員1名と準正職員1名、パート職員1名の退職者もありました。
- ・ 職員は全体的には増員しています。職員個々のレベルアップ、チームワークの向上が求められます。
- ・ 職員増員を目指してきて、日勤帯=麦の里の職員は充足してきていますが、ホームの夜勤・早番・遅番の職員はなかなか増やすことができずに、一部の職員に負担がかかっています。
- ・ 30代の男性職員で、家族の病気等の理由で、欠勤が続いた職員が出た中で「欠勤職員」のポイント制度を導入しました。結局、対象職員は2023年度になって退職となりました。20代後半～30代前半の、特に男性職員のモチベーションの持ち方、勤務態度についての教育など、今までの社会通念では対応しきれないケースが出てきており、採用側の姿勢として、考えさせられる1年でした。
- ・ 以前からの課題である、「夜勤ができる女性職員」の確保も進んでいません。
- ・ 2021年度から始まった「準正職員」の制度は、50代の未経験者でもチャレンジしていただくための条件として、活用しやすく、「準正職員」という採用者が2023年度になって、ますます増えそうです。ですが、一方で、「正職員」「準正職員」の「職務分担」、違いについて、もっと分かりやすくしてほしいという要望が一部から出ています。給料については、確かに差をつけましたが、それに見合うように職責を分けることは現場では特に難しく、さまざまな「係」「役割分担」「ホームとの兼務」などについて、職務分担について、組織的に見直す必要が迫っています。
- ・ 正職員の残業を減らしていくために日中に事務ができるようにしてきました。これにより正職員の残業も減ってきています。一方で日中の主任会議は数回のみとなりました。
- ・ PT・OTが月に2回ずつ来ていることで仲間たちの身体面でのことや姿勢などアドバイスを頂き、日々の仲間たちのケアに活かしています。

★★★【新型コロナウイルス感染対策に関して】★★

1. 感染対策として実施した内容

1)利用者・職員に対する注意喚起として

- ①手洗い・手指消毒の実施
- ②うがいの実施
- ③マスクの着用
- ④毎朝の検温の実施

2)玄関、各部屋の入り口に手指消毒剤・マスクの設置。

来所者に玄関にての検温の実施、来所者チェック名簿リストに記入してもらう

3)屋内全般の換気を心掛ける

換気の徹底（換気扇を回す、窓を開ける）

車両で移動する際には、窓を開けるなどして、換気に気を配る

4)「屋外作業」の方法に関する話合いと対策の実施

- ①廃品回収等は、人数制限をして出掛ける
- ②できる限りマスクを付ける
- ③なるべく手指消毒剤を持っていく等、外出先でも清潔を心掛ける。

5)公共交通機関利用者に対する送迎の保障

6)利用者帰宅後の全館のオゾン発生器・消毒液による消毒の実施

7)仲間たちで行っていたお茶やおやつ準備も、消毒、手洗いを気に向け、職員で行うようにする。

8)新型コロナワクチン集団接種2回実施（7月・8月に分けて1回、12月に1回）

2. その他利用者・職員への配慮

▼文章による注意喚起

「自粛休業」に関する紹介

万が一休業した場合の対策の紹介

▼口答による日々の注意喚起

3. 結果として

上記、クラスターの発生以外にも1月に仲間・ご家族が感染し、自宅待機ということがありました。感染対策をより徹底していくことが重要だと感じています。

Ⅱ、仲間たちの日課と活動スタイル

① 1日の日課と活動スタイル

朝の会はAグループ、Bグループ、療護に分かれて行います。

Aグループはその日の体調と作業の確認、週初めには1週間の予定の確認を行い、Bグループは、今日一日、誰が何の作業をするのか、毎日仲間にたずねて人数制限を設けて、作業を相談しています。その後、ラジオ体操、健康状態を確認します。療護ではトイレ・水分補給を済ませてから、朝の会で体調チェックと本日の活動の確認をしています。その後の流れは、午前の作業、各グループでの報告会、お昼ごはん、休憩、午後の作業をします。Aグループは13時から、Bグループ、療護は13時半から作業（活動）が始まります。

その後、15時10分より片付けや水分補給、トイレ休憩、各グループでの報告会が行われ15時40分からおやつの時間、終わりの挨拶後に麦の里の一日は終わります。

(西岡)

② 個別の取り組みと入浴

今年度も、個人の車椅子、補装具の修理等、理学療法士の先生と相談しながら、取り組んできました。また姿勢保持に関しては、作業療法士の先生とも相談をしながら、安定した姿勢作りを目指してきました。個別の通院にも職員が付き添い、対応することができました。通院については、ご家族の高齢化などの、個別の状況に合わせた支援が必要となるので、本人やご家族と相談しながら、今後について考えていきたいです。

入浴については、男性は月、木、女性は火、金の週2回、長期休みの前後は、なるべく入浴できるように心がけました。身体の状態の細かく把握しつつ、リラックスして、お風呂に入る楽しみに繋がるように、ストレッチや歌などを取り入れています。年度の後半には、自宅の改築まで入浴が難しいということで、短期で気管切開の仲間を受け入れました。ご本人と入り方等を相談しながら、入浴介助を行っています。家での入浴が難しくなっている仲間もいるので、ご本人、ご家族と麦での入浴についても相談していきたいです。

(柳原)

Ⅲ、グループ別 活動のまとめ

◎Aグループまとめ◎

1、仲間について

昨年度は仲間同士のトラブルを課題にしてきたが、トラブルを引き起こしやすい仲間の理解が深まったこと互いに歩み寄りがみられたことで現状は落ち着きつつある。年度中盤コロナ感染のクラスターになったことで対策として自由にお茶や、おやつを用意ができなくなり、そのほか細かなルールやスケジュール変更があったので仲間には窮屈な思いをさせてしまっている。気持ちの切り替えや変更を苦手とする仲間が多いが時間をかけ納得してもらうように説得し理解をしてもらった結果、その都度柔軟な対応を見せてくれた。

仲間の高齢化に伴い身体介助を必要とする場面が増え、見守りが必要になってきている。前田PT、松本OTの往診内容の確認、入浴時の身体の様子など職員間で共有していきたい。

2、仕事について

内職ではさまざまな内職をもらってきたなか手順・工程の難しいものが増えてきている。作業の理解度、手先の器用さが求められるなか作業内容に差がついてきてしまっていた。仲間が分け隔てなく作業に取り組めるよう工程を細かく分け多くの仲間が取り組めるよう作業を構成した。どの作業でも責任をもってやりがいや達成感を感じられるよう報告時に仲間と丁寧に納期を確認したり、進捗状況を確認したりと工夫もしている。自主製品は内職に比べてほぼ全工程を仲間で行っている。

仲間それぞれのペースで行うことができ、できあがりの良し悪しを意識し取り組んでいる。1つのものを完成させるまでの作業工程に関われるので達成感に繋がりやすい。

3、その他について

コロナ禍が収束を見せず仕事中心である仲間の息抜きとなっていたお楽しみが今年度も例会時に行われている。自分のやりたいことオリジナリティあふれる取り組みを自分自身で考え実践している。土曜日出勤が難しい仲間がいるのでその仲間たちには消化不良となっているのは否めない。

仲間一人ひとりと仕事以外で関われる時間が減ってしまい仲間に寄り添えていないのが現状。話が出来なくてさみしいと訴えたり発言が減ってしまったりと仲間の訴えがあるので課題として残る。正職員だけでなくパート職員と連携して環境を整えていきたい。

(三好・小林)

◎Bグループまとめ◎

1 仲間について

・重複障害且つ、区分のかなり重い人たちが16人。毎日元気に活動に取り組んでいます。目が見えない、麻痺がある、知的に重い。それでも社会の一員として地域に赴き、廃品回収や、企業のバリ、自主製品の制作に明るく、意欲的に取り組んでいます。基本的には仕事ものんびりやっているように見えがちな瞬間もありますが、職員が行うことよりも、「仲間がどうやったらできるか？」をみんなで相談して、個の得意な分野をどんどん伸ばし、新しい発想や、新しい一面を職員や仲間同士で発見しています。仲間たち同士のコミュニケーションでは希薄な部分もありつつも、お互いに仲間として認め合って、協力して仕事や活動に挑む姿は、逞しさと優しさを感じます。

2 作業について

今は人数も増え、職員体制も整わない時もありますが、それでも仲間のペースを乱さないように取り組んでいます「自分で決めて、納得して行動する」は「達成感」にもつながるので、大切にしています。例えばAさんが作業中にどうしても納得できずに、首を横に振り続けて自分がやりたいことを主張します。無理に「できない」や「やって」をせず、「Aさんこれやってみる？」別の形に変えて本人が納得すると、目を輝かせて活動に取り組めます。そして、出来なかったことまでもチャレンジすることができ、「達成感」に繋がります。これはAさんに事例ですが、他の仲間にもそれぞれ、「納得」をするようなコミュニケーションをお互いに取れるように、職員同士でも心掛けていくところです。

また、どんな重い障害があっても作業や活動に「挑戦」することも大切にしています。難しいと思うことも多いですが、どうしたらできるかな？にたどり着き、実践をしています。例えばですが、Bさんの「やりたい」を大切にする実践です。Bさんは目が見えませんが、いろんなことに挑戦をしてもらうことで、Bさんが「私やってみよう」といった、気持ちが芽生えてきました。それは、目が見えなくても、廃品やぼかしを触り袋に入れる、崩すなどをする事によって、Bさんの「やりたいこと」が増えてきたのです。目が見えない人が廃品を持つ、袋に入れるといったことは難しいと思うのではなく、且つ同じ作業だけではなく、それぞれの仲間「やってみよう」と実践していたことで、仲間の世界を広げることにつながります。職員の負担増があり、普段の大切にしたいところが、多少なりともおろそかになっても、「一度やってみよう」を根において、トライできる環境が作れるのもB組の優れているところであると思います。

「自分でやりたいことを決める」ことに関しては、時間をかけてでも大切にしたいと思い、みんなで支援をしています。方法としては、「会話」「絵カード」「指差し」

等多岐にわたります。もちろん自分では意思表示が難しい仲間もいるので、仲間のコンディションや職員体制を考えつつ、仕事に入ってもらいます。時に仲間同士でのやりたいことがぶつかり合うこともあります。行きた作業ややりたい種目が合って、なかなか譲り合えない時間があり、話し合う時間を大切にしています。最近では「ノートで記録をとって、順番に交代」が、メインになっていますが、やはり話し合いを大切に、「納得」をすることを大切にしています。

3. その他について

今後の活動として、多種多様の重複の仲間たちの「やりたいこと」の気持ちを引き出せられるような環境づくりをさらに強くしていきたいです。また、コロナ渦でなかなかできていない個別のレクリエーションにもトライしていき、新しい仲間たちの発見をしていきたいです。

どのようにしたら仲間がもっと作業や活動に打ち込めるのか？を職員間同士でも、そして仲間たち同士でも話し合う場を設けていきたいです。仲間の会を開くことは、多忙な中で難しいことではありますが、時間を確保して「何をしたい？」「何を变えたい？」をもっと共有していくことでB組の活動も濃密なものになっていくと思われれます。また、仲間たちの中で「他の仲間の事を想ってあげる気持ち」が芽吹くように職員が支援にあたりたいと考えています。ノートで固定化された譲り合いではなく「自分から譲れる気持ち」が芽生えると、より仲間にとって自分の世界の視野が広がることや、発達に繋がると思っています。また、A、B、療護の合同の活動をもっと増やしていく事でB組の仲間意識の成長にもつながると思います、今後、A、B、療護の合同活動的なものが年に一回でもあれば、豊かになっていくのではないと考えています。

(岩切・山口)

◎療護グループまとめ◎

1、仲間について

医療的ケア・見守りが必要な仲間、ゆったりとした時間を過ごす仲間が集い、新しく仲間が2人増え13人になりました。しかし、コロナ禍という環境で麦の里に通うことが出来ない仲間が2人、発作が多くて出てこられない仲間が1人います。

重度の仲間が多いグループですが、できる限り元気に毎日麦の里を通うことが第一の目標とし、その中で大きな病気をして休むことなく通うことができています。

2、作業活動について

日々の活動として体幹遊び（エアートランポリン）、楽器遊び、絵本の読み聞かせやボーリング等と、仲間が身体を動かすことや楽しむことを大事にした活動を中心に日々過ごしています。特にエアートランポリンでダイナミックに弾んで体を動かし、ボーリングでは自分でボールを転がそうと腕を少しでも動かし押し、ボールを倒したときの感情豊かな部分を引き出すことは重要だと感じています。

また、外に出かける事で季節を感じてもらいたいため、散歩で定光寺公園、岩屋堂、恵比寿駐車場と出かけています。

仕事での作業ではバリ取り、牛乳パック、チラシ折り、季節によっては缶集め等と療護の仲間で行える内容を工夫しながら取り組んでいます。

3、その他の取り組みについて

急遽1月より気管切開の仲間も入浴のみの利用が開始しました。本人の要望を聞きながらお風呂の中で自分でもできるリハビリに取り組んでいます。その他の仲間でも、身体の事についてPTOTに聞きながら、身体をほぐしていけるスキルが職員一同必要だなと感じています。また、コロナ禍ということもあり療護で行うバザーや、お出かけとして考えていた水族館が中止になりました。

(北村・川口)

IV 作業活動について

2022年度 作業別3行総括

◎内職作業◎

○アイシン

ジブリの食器類を梱包する箱のシール貼りが主な内職の一年でした。不良を出すほどの余裕がなかったこと、シールに明確な印がなく微調整するのが難しかったこともありあらかじめ職員半分貼ったものを仲間が貼っていきました。このように分業にしたことで多くの仲間が取り組むことができました。納期に追われることが多少あり仲間のペースが保てず焦らせてしまうこともありましたが、達成感があったように思います。A Cプラスのシーラー作業、陶器割り、荷下ろし等のお仕事も引き続きいただきました。

(三好)

○カネ三

昨年度から途切れる事なく安定した量の内職をいただいています。仲間も作業に慣れ、急な納期の変更に対応できるようになりました。チェック作業は回数を重ねる毎にそれぞれのこだわりが出てくるので不良としてしまうものが増えてしまいその都度丁寧な確認が必要でした。チェックだけでなく同じ物がきても紙の包み方、箱の組み立ての注意点など再度確認してから取り組むようにしています。

(三好)

○ミヤトー

昨年度末から今までの内職と合わせて、年に3、4回決まって入る定期の仕事を引き受けることになりました。始めのうちは、職員も仲間もやり方に試行錯誤していましたが、回数を重ねるたびに、仲間の得意不得意に合わせて、工程ごとに分けて取り組むことができ、多くの仲間が関わっています。その他の内職は変わらず、様々な種類に取り組んでいます。作業に慣れてきたことから、仲間たち自身で、次に来る仕事の内容や、作業の進捗状況や納期を気にする場面も増えてきています。

(柳原)

○奥村ゴム

コロナ渦でも、コンスタントに作業を提供してくださってます。A、B、療護ともに作業として取り組めており、非常に大切な仕事になってます。パート職員さんにも納品に出かけもらいながらも、仲間は懸命に運び納品するところまでしっかりやってくれています。

特に円盤のバリ系は数も頂けるので、みんなでやりがいをもって取り組んでいます。ボカシやほこり等がつかないように、細心の注意を払いつつ、今後も作業に取り組ませていただきたいと思います。

(岩切)

◎自主製品◎

○パン

今年度も、コロナ禍によるバザー・イベントの中止・激減があった為、外での売上げが伸びない一年でした。せとぶれんどとの協力による、クッキーやパンの注文や、萩山保育園からの注文は、定期的に注文も頂いておりますが、近年の材料費の高騰や、麦の里内部の売上げも減ってきているうえ、11月には、コロナの影響による施設の運営停止もあった為、マイナスの歯止めが利かない一年となりました。今年は新メニューの栗あんぱんを販売し、再販メニューの桜あんぱんやチョココロネ等を復活させています。それは、仲間のモチベーションの向上に繋がりました。

新規の顧客開拓を目指すとともに、売上げの回復を目指したいと思います。

(小林)

○パン集計

主に作業していた仲間が入浴で半日抜けるようになり、他の仲間が補いながら作業をすることが増えました。今まで自分の担当はほぼ確実にできていましたが他の担当作業を加えてみると整理がつかず混乱していることが多くありました。その反面、自分の担当以外の工程を知ることができ、のちに自分の作業に関わるので相手のことを考慮することができるようになりました。自分の担当以外の作業も少しずつ取り入れパン集計全体の作業を覚えてもらうようにしていきたいです。

(三好)

○炭作業

今年度は、年度当初より道の駅さんにお話しを頂き、炭製品を販売することとなりました。主な売上げは物資販売と道の駅、せとぶれんどとなりました。道の駅が増えたことで売上げもあがりました。仲間たちは「竹取り」「加工」「炭焼き」「製品作り」に取り組んでいます。内職作業中心の中、少数での作業が中心となりました。仲間たちは、加工作業では、身体を動かす良い機会となって、竹取りも昨年度から継続し、定期的に竹を補充しています。仲間たちが身体を動かす機会として重宝しています。来年度は木炭の製造を考えるとともに道の駅に置く製品を増やすことも検討していきたいです。

(村松)

○カード・爪楊枝入れ

今年度は、物資販売やせとぶれんどからの粗品注文を中心に販売しました。また、年度後半には粗品で大量注文も頂きました。野菜シリーズの楊枝入れは、続けて作っているもので精度も上がってきています。同時にその他の製品も「工程を忘れないように」取り組んでいます。

(村松)

○ネコミミ

今年度は久しぶりに招き猫祭りが開催され、年度の後半から来年度に向けての準備をスタートしました。昨年度の持ち越し分があり、作る個数としては多くはないが、初めての仲間が挑戦するなど、仲間のペースに合わせて進めることができました。工程を忘れないように、長期的な作業とし、これまで通り、A、Bグループで作業分担をして協力しながら、安定した仕上がりを目指していきたいです。

(柳原)

○牛乳パック

仲間がみんな関われる作業の1つです。Aグループでは、主に六角形を作成し、Bグループは、正座いす・長方形を中心に作っています。療護グループも紙ちぎりなどで参加しました。縫製はエプロンズさんが担ってくれています。売れ行きは、少しずつですが、仲間たちの活動として重宝しています。

(川口)

○EMボカシ

今年度より、仕込みの時間帯を午前から午後に変更しています。それにより30分程作業できる時間が増えました。また、材料の計量、個人での混ぜ込み、お茶休憩、グループでの混ぜ合わせ、樽入れと時間配分を設定し、個人のペースでゆっくりと作業できるようになり、仕込める分量も増えました。

(北村)

○生ゴミ園芸

去年度もスロープで色々な野菜の種を植えました。たとえば花、サツマイモ、インゲン、トマト等をスーパーから買って職員と仲間と植えました。麦の里で作ったボカシを使って土と一緒に混ぜて使いました。Aグループの仲間たちは土を準備してから種を植え、療護グループの仲間と職員が毎日水掛やお世話、収穫、販売を行い、全部で7000円分の野菜を売ることができました。それから自分と仲間たちが育てた物を使っておやつを作って一緒に味見をしました。美味しくて美しいものが育って色々な体験もできました。すごく良かったと思えました。次年度はBグループの仲間たちも水や収穫に少しずつ参加出来ればと思っています。また、次の課題として年間の具体的な計画を立てて、皆さんとやることの共有を図りたいと思います。

(古謝・GIAU)

◎廃品回収◎

○廃品回収

Bグループの仲間を中心に取り組んでいる外作業です。最近では、声かけで作業が進むくらいになり、余裕もできました。天候に左右され、きつい日もありますが、仲間たちが、やりがいのある作業にと心がけてルート作りをしています。今後は、協力先を増やしていきたいと考えています。

(加藤)

○アルミ缶回収

まだコロナの影響で人数制限がありますが、晴れたら毎週金曜日にアルミ缶集めをしています。A組さんに缶洗いをしてもらい、B組さんに缶潰しをしています。

スチール缶もお金になりますが、作業が大変な為スチール缶は回収していません。その時にたまたま入っていたので、A組さんにスチール缶を洗ってもらい、乾かしてから、専用の袋に入れる作業をしてもらいました。本格的にスチール缶も頂いて作業にすることは検討中です。いつも保護者や地域の方からも沢山缶を頂いて集めることが出来ました。

(山口)

◎その他の作業◎

○学校物資

現在は6校分取引をさせていただいています。今年度は物価高やコロナ渦もありながらも対面販売やチラシ集計の際にお邪魔させていただくことができ、仲間たちの大切な仕事の一つになっています。集計は今回、コロナも重なり職員がする部分もありましたが、販売は仲間たちが現地に行って、手渡しで渡させていただきました。来年度には新しい学校からの仲間も来るので、是非にその学校と交渉をして販路拡大と収益upを図りたいと思います。

(岩切)

○機関紙作業

2022年度は、入職2年目の職員が機関紙作成担当となったが、7月に退職。以前から仲間の機関紙作業を担当していた職員も12月に退職。その為、12月号を1ヶ月遅れで発行して、年間5回発行しました。新年度新しい正職員を増やしていく中で、担当者を新たに決めて、定期発行を目指したいけれども、「麦の会」の会員・賛助会員の減少、そして機関紙の内容のマンネリ化などから、年間の発行回数を減らすことを、現在「麦の会」でも検討中。新年度中に発行回数や部数についても、検討していきたい。

機関紙発送作業については仲間達の作業の中で、機関紙作業は2ヶ月に1回という間隔ではあるが、定期的に取り組む室内作業として定着してきており、A・Bグループだけではなく、療護グループでも、取り組んできている。Aグループでは、①丁合②折り③ページ組④三つ折り⑤封筒入れ⑥封閉⑦数確認とゴム止めといった一連の作業を、それぞれ得意な仲間達が分担して取り組んでいる。Bグループでは、①丁合②折り③ページ組④三つ折りの作業を、ひとり1人の手の動きに合わせて出来るように職員が個別に工夫して、流れ作業で取り組んでいる。療護グループでは、「折り」の作業を職員と一緒に取り組み、個々の手の動きや芽の動きを引きだし、リハビリ的な取り組みとしても有効という報告も出てきている。

2020年位から、原稿作りの面では、Aグループでは、完成した原稿のチェック担当を仲間が担っていたり、自主的に【クロスワードパズル】作りに挑戦して掲載してきた。2022年度は、職員体制の面から、その点について、継続しきれなかった。新年度の課題として、仲間達と話し合いが必要。

(渡邊)

○かやふきん

昨年度同様に、物資販売を中心にしています。療護グループを中心に作業に取り組んでいます。来年度も物資販売を中心に活動していきます。

(川口)

V 行事・その他の活動

1. 全体として

去年はコロナ過の影響で麦の里では職員と仲間たちはワクチンを3, 4回打つ事が出来ました。成人式のお祝い、バザー、避難訓練、役員会も行なう事が出来ました。

成人式ですが今年度はコロナ感染が多く出ましたがご両親と相談して間隔を開け、消毒をして感動的な成人式を順調に行なうことができました。

バザーもコロナ過の影響で参加出来なかったのが今回はぬくもりセンターのお祭りに職員とお母さんたちが相談して、お母さんたちと仲間も一緒に参加することができました。

避難訓練は地震により火災が発生した想定でヘルメットを着用しながら行い、仲間たちと避難の経験を共有しました。

例会活動は仲間たちがやりたいことを、コロナ感染しないように気を付けながら考えて取り組む事が出来ました。

2. 仲間たちの行事・活動

①各種バザー

去年、麦の里では仲間たちも職員も3回目、4回目のワクチン打つことが出来ました。それでも多くの人がいる場所へ行くのはまだ心配なのでバザーに参加するかどうかを職員で相談した結果、職員と仲間たちもマスクして、消毒してから参加する事が出来ました。

今年度は、年4回バザーに参加しました。ぬくもりのバザーでは、職員だけでなく、仲間たちとお母さんたちも一緒に販売活動しました。仲間たちも、お客様に積極的に声をかけて、販売したり、あいさつも上手にしてくれました。

ロータリークラブの方にお声を掛けていただき、名古屋の栄町でワールド・フード・フェスタという大きなお祭りにも出店させていただく機会もありました。

その他、やすらぎ会館でのマルシェの出店や、市役所での福祉マルシェなどにも、定期的に参加させていただいています。

今年度はコロナが5類になることで、バザーに出店できる機会も増えていくと思います。いろいろな方々と交流できる機会なので、積極的に参加していきたいです。

②例会活動

2022年度の例会活動はコロナ禍の影響もあり、公共施設を避けて行いました。麦の里内と外で行うレクリエーションを職員と仲間で、話し合って意見を出し合い、活動内容を決めました。毎月、職員が準備をして楽しい時間が過ごせたと思います。

③役員会活動

麦の里では毎月役員会が一回あります。いつも仲間3, 4人と看護師一人と職員と一緒に参加します。仲間と有意義な時間が過ごせるように、担当する職員同士で相談して行いたいと思います。

④成人を祝う会

コロナ禍の影響が懸念されましたが、出席者が、約90名の中で、A. Sさんの成人を祝う会が開催されました。主役の本人が、長い間、イスに座っていられるか不安でしたが、御家族が近くにいるおかげで座ることができました。最後は御両親によるスピーチで多数の方が貰い泣き。手作りの紙吹雪が舞う中、退出され無事に終了しました。

⑤避難訓練

令和4年12月5日に避難訓練を実施しました。例年同様、Aグループ・Bグループ・療護グループに分けて行われました。天候が心配されましたが、事故もなく、無事に終わることができました。今年度はヘルメットを購入して、初めて実際にヘルメットを使って訓練をすることができました。終了後は各グループで反省会を行いました。また、反省点を改善していきたいと思います。

(GIAU・修)

VI、施設運営について

1. 全体として

- ◎14年間、麦の里で歩く力を身につけながら頑張ってきたEさんが、お母様の急逝の後、自宅近くで365日開所しているグループホームへ移籍されました。親亡き後の問題について、切迫感を新たにされた1年でした。
- ◎仲間と職員の数が増える中で、【日課】の見直しを行い、A・B・療護グループ別に1日の流れを整理。グループ毎に朝の会や報告会をまとめ、若い主任達を中心に、1日1日の活動を充実させる事に心を砕いた1年でした。
- ◎初夏、利用希望の高校3年生の実習受け入れ数名に加えて、久しぶりに地元の特別支援学校から、高校2年生の実習希望者が6名登場。久しぶりの高校生の登場で、現場の雰囲気が一変しました。
- ◎地域で、様々な問題を抱えながら生活している方から、複数利用希望の相談が相次ぎました。障害も利用日数も様々でしたが、職員数を確保する中で、できる限り受け入れることに努めてきました。新しい仲間を受け入れる事で、職員の輪も、作ることができるとあらためて体験した1年でした。
- ◎退職した職員も居ましたが、新しい職員も何人か採用。そんな中で「若手職員の急なお休み」に振り回されて、職員のシフト作りや勤務変更に頭を痛めた1年でもありました。
- ◎それでも、日中支援の職員は充足してきて、日中勤務時間に、事務室で文書作りや事務に向かう職員の姿も増えました。
- ◎夕方のミーティングのまとめ方も短時間で終わるようになり、職員の退社時間は早くなりました。一方で、職員会議の回数は減り、月に2回持てない事も増えました。
- ◎そうして、仲間45名と職員50名以上、合わせて100名以上の大所帯となった「麦の里」は、「七色の麦＝ホームとの兼務」という、煩雑な業務もこなしながら、毎日の作業活動を活発に組み立てながら、大きな事故やトラブルもなく、取り組む事ができました。日常的な申し送りや仲間達の事個別の対応も、ひとり1人丁寧に、滞りなく対応しています。
- ◎グループ別にしたことで、それぞれの職員の責任分担も軽くなり、グループ毎にまとまりつつ有るようです。けれども「麦の里」全体としてはまとめにくく、「次の一歩」に向けて課題が残る1年でした。
- ◎コロナ禍3年目の秋の終わり、第4波の後の、気の緩みの中、突然コロナ感染者が急増。初めて「麦の里活動休止」事態となりました。それでも、自宅へ帰れない感染した利用者を、グループホームで生活支援を続けました。
- ◎ホームの運営も、夜勤ができる職員の退職で、一部の職員の負担が増えています。それでも、保護者の「高齢化」による将来への不安を減らし、少しでも安心が増えるように、グループ体験利用者の増員に着手。9月からは「5泊6日」にも挑戦した年でした。
- ◎仲間達の作業活動、生活支援について。それから、仲間と職員数が増える中で必要になってくる管理業務。それらを組織としてなどのように分担して、まとめていくのか、あらためて考えなければならない時期を迎えていると考えさせられた1年でした。

2. 仲間について

- ◎2022年3月にお母様の急逝で、入所できる「グループホーム」を探していたEさんが、結局自宅から近い場所の「ホーム」と「生活介護」へ、6月に移籍されることになりました。Eさんは2008年の春に特別支援学校新卒で、麦の里へ通所。グループホームも体験利用を重ねていた

方なので、出来れば『七色の麦』に入所という事で検討しましたが、現在の麦の里の状況では難しいという判断からの退所でした。14年間利用されていた方の退所は、現場にも大きな影響となり、「麦の里」と「七色の麦」の将来に向けての課題を、あらためて考えさせられる出来事となりました。

- ◎一方で、一昨年度から利用希望のあった卒業予定者が2名。それ以外にも卒業予定者や、地域の中で様々な事情を抱えた方々の利用希望の相談が相次ぎ、6月以降受け入れ相談が多い年度となりました。結果として、9月に1名。12月に1名。2月に1名。そして、新卒の方が3月から1名。合計4名の新しい仲間を受け入れました。

3. 職員体制について

- ◎4月から、正職員1名とパート職員2名を増員。『グループホーム』365日開所体制を目指して、職員の募集に励みました。

けれども、30代40代の職員の確保が、中々進まない中で、2021年度採用した「特定技能実習生」職員の紹介で【特定技能実習生の受け入れ拡大】を決定。年度末3月半ばから一人増えました。

- ◎また、まったく経験の無い中でチャレンジしたいという30代と50代を、年度後半から「派遣職員」として採用。2023年度以降に掛けて、「直接契約職員」に移行して頂いて採用していく予定です。

- ◎職員増員を目指している中で、正職員・準正職員が計2名と、パート職員が1名 退職者もありました。

- ◎職員増員を目指してきて、日勤帯＝麦の里の職員は充足してきていますが、ホームの夜勤・早番・遅番の職員は中々増やすことができず、一部の職員に負担が掛かっています。

- ◎30代の男性職員で、家族の病気等の理由で、欠勤が続いた職員が出た中で「欠勤職員」のポイント制度を新たに導入しました。結局対象職員は2023年度始めになって退職となってしまいました。

愚痴のような話になってしまいますが、20代後半～30代前半の、特に男性職員のモチベーションの持ち方、勤務態度についての教育など、今までの社会通念では対応しきれないケースが出てきており、採用側の姿勢として、考えさせられる1年でした。

- ◎以前から課題である、「夜勤ができる女性職員」の確保も進んでいません。

- ◎2021年度から始まった「準正職員」の制度は、50代の未経験者でもチャレンジして頂くための条件として、活用しやすく、「準正職員」という採用者が2023年度になって益々増えそうです。

ある意味、入職して頂きやすくなりました。ですが、一方で、「正職員」「準正職員」の「職務分担」、違いについて、もっと分かりやすくして欲しいという要望が一部から出ています。

給料については、確かに差をつけましたが、それに見合うように職責を分ける事は、現場では特に難しく、様々な「係」「役割分担」「ホームとの兼務」などについて、職務分担について、組織的に見直す必要が迫っています。

- ◎総括的に言えば、職員の数に着実に増加しています。とりわけ準正職員が増えており、今後も、50代のチャレンジ採用や特定技能職員の増加が見込めそうです。一方で、増えた職員の技能の向上、チームワークの強化などの課題がでてきており、これが今後の課題と言えます。

4. 事務部門について

- ◎正職として事務職員が順調に機能しており、日々の事務作業については順調な一年だったといえる。

- ◎理事長が日常的に事務作業に入っており、単体施設の麦の里の事務作業と、法人全体の事務作業が入り混じっている。来年度以降、第2麦の里ができ、複数事業の運営をしていくときには、新しい体制を組む必要があると思われる。

5. 新施設について

- ◎県の審査を通り、新年度には、新施設の中身を早急に詰めていく必要がある。麦の里らしく、使う仲間を想定しながら施設の構想を練っていく。また、法人の本部を独立させるか、前項で述べたように、事務の系統を整理しなおす必要が出てくる。

(渡邊・稲垣)

2022年度 仲間三行総括

《Aグループ》

TA. A

てんかん発作のある仲間が昨年度12月より通所している。麦の里では2回ほど転倒しているが一瞬のことであり本人もあまり自覚がなく終わっている。職員も発作前後の様子をしっかり把握できていない。今年度の発作は家でのみとなっている。転倒の対策として手すり付きの椅子を使用する、階段・移動時の付き添いをしている。動作はゆっくりではあるが外作業も問題なく行い内職では細かい作業工程も任せられるだけの力はある。仲間との関係性は良好で休憩時は仲間と共に過ごす姿が見られた。

(三好)

TO. A

通所してから3年経った。仕事の時間と休み時間のメリハリがついてきた。仕事中は多少周りが騒がしくとも我慢して仕事に意識を向けることができるようになってきた。昼休みや帰り際の休憩時間に奇行なこだわりを見せることもあるが自然とやらなくなることが多いこと、さらにこだわりとまらないようにしつこく注意したり行動を制限せず見守っている。家族のレスパイトケア対策として七色の麦を利用した。泊り後、麦の里ではいつの通り過ごしている。

(三好)

R. KA

新しい仲間や他の仲間と分け隔てなく、コミュニケーションをとることができ、仲間の輪の中心にいることも多いです。外仕事では、本人の中で歩行を不安に思っ、助けを求める場面もありますが、自分なりに出来る範囲で取り組んでいます。その他、手先は器用なので少しずつ難しい作業にも挑戦しています。失敗をした時や、やることが分からない時などに、なかなか言い出せない、自発的に奮えるようになることが課題です。

(柳原)

MA. K

以前より足元が安定しないところなどでは、壁をつたって歩いていたが、7、8月頃にふらつきが多くみられ、9月から麦の里内での歩行器の使用を開始しました。始めのうちは、使うことを忘れることもありましたが、少しずつ使うことに慣れてきています。仕事の面では、内職等の出来に悩んでしまう事もありますが、自分で考え、職員に相談しながら、“自分で出来るようになりたい”と取り組み、新しいことにも挑戦しています。

(柳原)

KA. K

気持ちが安定しない時や、苦手な仕事の時には、落ち着かないことも変わらずありますが、時間をかけて、自分なりに切り替えられることが少しずつ増えてきています。手先が器用で、内職等においては、他の仲間には工程の難しいものも任せられるなど、特に力を発揮しています。

(柳原)

S. KU

ダウン症の仲間では心臓の疾患があり、酸素の吸入が必要です。麦の里では、パンの作業が中心で、常時の吸入は困難の為、朝・昼・夕方に30分程の吸入の対応をしています。以前より気持ちに波があり、集中力の維持はその日によって差はありますが、調子のよい時は、前向きな姿勢で取り組んでいます。愛嬌も良く、職員や仲間とのコミュニケーションも自ら取っています。血中酸素の数値が低い場合でも、頑張ろうとする為、心臓の疾患にどの様に向き合っていくか、考えていきたいです。

(小林)

TO.S

年齢に伴ってお姉様と二人暮らしで、ご高齢である為、自宅でお風呂に入らずに、今年から麦の里でお風呂を利用する事になりました。入浴時ケガなどしていないか確認して入ってもらいます。仕事でも時々とうとうとしています。頑張っている作業に取り組んでいます。いつも朝の会とか報告会の時に夢中で好きな絵を描いています。職員さんと会う時はいつもお祭りのダンスの動作をしながら「可愛い顔だね」と言って笑っています。今年度も笑顔と元気で職員と一緒に過ごしましょう。

(GIAU)

YA.T

毎朝麦の里に来てからすぐ他の仲間たちに近づいて話しかけています。昼休みにもBグループの仲間たちと一緒に色々な事をお喋りしています。仕事も頑張っている早く出来る方ですがチェックが必要です。自分でトイレは出来ますが最近トイレの時間が長くなりました。そのために仕事始める時間と帰りの時間が遅くなってしまいます。今年度は皆さんと一緒に仕事始めましょう。

(GIAU)

KE. N

マンツーマン対応の仲間。昨年度末頃からパート職員の2名が交代で対応している。七色の麦でいろんな職員をマンツーマン対応に付けたことで職員に慣れてきたように思える。また苦手な仲間でも同じ空間で仕事をしたり、同じ仕事をしてみることで共感する機会を設け少しずつ距離が縮んできている。母の入院で不安要素が多かった時期に休むことなく登所できたのは自己効力感を培う良い機会となった。新しいことをはじめる時やルールを変える時、何かが気になりはじめそれが強いこだわりとなるきっかけになってしまうので職員の発言や指示、対応等に注意が必要。

(三好)

TA. T

パン作業が中心の仲間、手話が必要になります。作業も、引き続き切り分けや包丁を使用した限られた仲間には出来ない作業をお願いしております。

今年は、あんぱんの中に入れる餡や、カスタードクリーム作りをお願いしていても、腕や肩の痛みの訴えがあり、自らやるというモチベーションが下がってしまい、他の仲間をお願いする事がありました。体調面と相談しつつ、チャレンジして貰うことがあり、その回数を増やしました。出来は良く、それを自慢につなげたいです。パンの作業のない日も、内職作業で、その能力を発揮していますので、そのまま維持して欲しいと思います。

(小林)

NA.M

内職と炭の作業を中心に頑張っています。新しい作業でもすぐ出来てしまう仲間です、最近急に他の作業をお願いしても「はい分かった」と言って手伝ってくれます。朝の仲間の会では天気の話、作業が終わってからの進捗にもちゃんと報告しています。毎日昼休みの時間にのんびりしながらリズムを作って作業室の掃除をしています。今年度も職員と楽しい事をもっと探していきたいと思います。

(GIAU)

HI.H

歩行の不安と転倒は昨年度からあまり変わらないが本人が落ち込むことが少なくなり、前向きに向き合えるようになってきた。外作業も拒むことなく体調にあわせ行うことができている。仕事に関して責任感を人一倍持っているので指示されたことを徹底してくれている。今年度より相談員が代わった。以前の相談員には一段の信頼を置いていたこともあり戸惑っている。交友関係はあるものの生活に関わることを気軽に相談できる人が身近にいないため妻の里の職員でも気軽に相談できるような環境を整えてあげたい。

(三好)

KO.M

マンツーマン対応の仲間です。限られた職員だけでなく、他の職員との対人関係でのコミュニケーションを少しずつ取れてきています。その為、対応できる職員も増えました。

月・水曜にパンの作業に入る時も含め、こだわりが強い日やパニックをする事が、今まではありましたが、この1年は、かなり減ってきています。特に、パンの作業は、トイレ以外で部屋を抜ける事が殆ど無くなりました。その他の作業でも、自分のペース配分で作業が出来てきているので、更なる集中力の向上を含めて、このまま保ち続けていきたいと思います。

(小林)

NA.M

作業が中心の仲間ですが、週に1回、パンの作業にも入ります。ラベルのシール貼りなどのわかりやすい作業はしっかりと取り組んでいます。パンの作業も、翌日に使うパン生地の子材料の計量や具材の取り分けなど、を間違いなくできています。以前は休憩に行ってもなかなか戻らず、戻ってきて作業に入っても、終わる頃にパニックしている事がありましたが、それが大分減ってきました。

引き続き、気持ちが落ち着いて作業できる様な、環境や声掛けも配慮していきます。

(小林)

HI.Y

年度半ばに家で転倒をし、動けなくなり、しばらく妻の里を休んでいましたが、自分でもご家族もどうにもならないと連絡があり、訪問。そこからヘルパーや妻の里が朝の準備に入ることにより、通所を再開することが出来ました。ただし、また転倒することの不安から立位をとることが難しくなっています。ご家族の高齢化も進んでいることから、ご本人やご家族と相談しながら、今後を考えていく必要があります。仕事の面については、パン集計などやりがいを持って取り組んでいるものもあり、通所の意欲につなげていきたいです。

(柳原)

YA. Y

パン作業が中心の仲間で、力を必要とした作業に実力を発揮しています。グループホームの利用者で、世話好きの為、そちらでも料理などの協力をしています。

引き続き、他の仲間にも、カスタードクリーム作り等にチャレンジしてもらっているので、そちらの作り方を指導する事も積極的に行っています。内職でも、前向きに取り組んでいます。その分、コミュニケーションの取り方などで悩みを抱える事もあるので、声掛けに注意して、できる限り対応していきたいです。また、パンの作業以外の作業ももっとやってみたいという気持ちも強くなっています。パンの作業にはとても頼りになるので、他の作業との兼ね合いで希望に添えてあげられたらと思います。

(小林)

《Bグループ》

TA. A

体調が優れず、好きな外作業に参加できない日もある中、室内作業を中心に頑張っています。体調が良く、外作業に出られる時には、車を運転する真似をしてアピールしています。ぼかしの作業では、大好きな台車を押して活性液作りや洗いものにも積極的に挑戦しています。作業後は、時間をとって行った作業の感想を、日記に書いている姿も印象的です。今後も、身体の調子をご本人と確認しながら外作業にも参加していきたいです。

(加藤)

E. I

作業中で起きていることが増えて、朝の会では仕事を決めるのに少しずつ司会やその日に決める作業に参加ができるようになりました。好きな作業には笑顔で取り組み、バリの作業では、きれいに10個ずつ並べることが出来ます。また、納品などの外出する回数が増えました。

(山口)

AY. U

特定の職員に対しては、自分の「やりたいこと」「伝えたいこと」を大きな声で、しっかり伝えられるようになってきています。また新しい職員に対しても、自分のことを慣れた職員を介さずに、直接話せるようになってきています。作業面では、室内、屋外ともに非常によく頑張っていて、他の仲間の掛け声をまねして「えいやー！」と言いながら、段ボールや缶等の廃品物を運んだり、報告会では「バリ取ったよー！」と自分の行った作業について自信を持って報告ができるようになってきています。今後も、この元気な明るいAさんをGHの支援とも共有しながら、Aさんの日々を支援していきたいです。

(岩切)

MI. K

本人から今までやったことに挑戦したいということで、初めてハサミを使った作業に挑戦してみました。作業では牛乳パックを切り開き、缶集めでの外作業、足踏み機械での缶つぶし、役員会では折り紙を切って魚釣りのゲーム、月1回グループホームでのお泊りも始まりました。どんなことにもやりがいを見つけて、何事にも意欲的に挑戦しています。

(山口)

MA. K

新しい仲間や職員が入る際には、先輩として作業の説明やお手本をお願いされると笑顔で引き受けてくれます。コロナの影響で外作業は少人数の中、午前、午後と分けて半日は中作業、外作業と分けての作業も日課となり、1日を通して中作業の時も増えました。毎朝での作業相談が生かされて、予定変更の納得に時間も長くかからなくなりました。

(山口)

SHI. K

昨年度から室内作業も少しずつ増えてきましたが、やはり外作業がメインとなっています。暑い日も寒い日も頑張っています。アルミ缶洗いやアルミ缶つぶし、ぼかしの作業にも挑戦して、できることが増えてきました。コロナ感染対策ということで、作業室でも食事をとることになり、食堂と違って少人数での静かな食事に、Sさんも比較的落ち着いて食事をとることができるようになりました。今までは、特定の職員が担当していましたが、最近では多くの職員が関わり、安定した毎日を過ごしています。

(加藤)

Y0. K

自分のペースでのんびり過ごしている時間がかなり増えてきています。自己主張する場面も増えてきていて、朝の会でも「太陽」といって、騒がしい場所から離れて、一人でベンチに寝転がっているときもあります。ですが、職員も無理には止めることはせず、まずKさんの発言から、やりたいことをくみ取り、受容しながら作業に誘う対応を心がけています。言葉数は今も少しずつ増えていて、職員が尋ねたことに対して、本人は聞かずに、考えてから受け答えをしています。青色のGHでのできごと(お楽しみ会)で、配られるデザートのお話を自発的に発することもあります。自身のペースを大事にしてあげながら、麦の里で過ごせるように支援していきたいです。

(岩切)

K0. K

夏頃、ご家族からぼかしの作業を控えてもらうようにと連絡をいただきました。それからは作業室で作業する機会も減っていき、主に食堂で作業に取り組んでいます。朝の会や休憩時には自分からコミュニケーションをとろうと、職員の手を取って文字盤を使用して職員とお喋りをしています。そこで自分のことを吐き出し、すっきりした後は作業にも最後まで取り組むことが出来ている印象です。これからも彼の気持ちをくみ取りながら時間をかけて支援していきたいです。

(西岡・古謝)

A. SE

多くの職員と関わることで、施設の中での行動範囲が広がりました。マンツーマン対応で取り組み、少しずつできることが増え、廃品回収は得意な作業の一つとして定着しました。本人のやりたいことや意思疎通が職員も上手くくみ取れずに色々話し合いをして、どうすればいいのかを考えながら、支援に取り組んでいきました。その中でも、一つ一つできたことに手を叩いて、ともに「すごいね」「できたね」と喜びを見せて褒めてあげると、本人も継続して作業に取り組むことができていました。今後も、本人の意欲を伸ばしていけるような支援を続けられるよう取り組んでいきたいです。(西岡・古謝)

KE. K

変わらず食事や水分の際の飲み込みの状態を注意しています。食後、15分ずつ両側臥位で体位交換をしながら身体を伸ばして休んでもらうなどの取り組みを変わらず継続しています。作業の場面では元気に、「できたー」「やったー」と声にし、仲間に声援を送って励まし、声色を変えながら皆さんとコミュニケーションをとり作業に励んでいます。また、上肢の動き、特に腕や指先を伸ばしてもらうことを意識しながら作業に取り組んでいます。

(西岡・古謝)

AK・S

ほかしの作業ではシーラーの工程をよくやってくれていますが、ほかしを詰める機械にも挑戦しています。職員の声かけで機械を押したり、引いたりと本人も意欲的で目を輝かせて頑張っています。職員の名前を呼ぶ時には、返事だけだと近くに来てくれるまで名前を呼んで、手招きをしている可愛らしい一面もあります。また自分から積極的に手を上げて発言しています。今後も彼女の発言に耳を傾けて、一緒に挑戦していきたいと思います。

(山口)

AI・M

以前は水が大好きで身体が濡れるほど、水をかける場面がありましたが、最近ではみられなくなりました。また仕事に関してはほかしのシールを貼ったり、缶集め、廃品回収、納品等々いろいろやれる方です。その度新しい職員が代わっても、その職員にあわせてくれる優しい方です。

(山口)

TSU. M

一日の作業を絵カードや会話を通して、職員と相談しながら選んでいます。調子のよいときには、職員との会話に笑顔を見せ、観たい番組のチャンネルは指を折って「今日は〇〇を観るんだ」と場の話題提供に盛り上げてくれています。今後も麦の里の皆さんの先輩として、リードしてもらえるように、体調面にも考慮しながら作業に取り組んでもらえるよう続けて配慮が必要だと考えています。

(西岡・古謝)

KA. Y

手先が器用で、Bグループの中でも内職作業の中心的存在です。作業以外は玄関でいつも過ごしていましたが、少しずつ皆さんと一緒に過ごせるようになりました。環境に配慮し、休憩時には穏やかな時間も増えました。高血圧の影響で、秋冬は外作業にドクターストップがかかっていましたが、足などの身体の固さが気になりますので、気候の良いときには、外作業で体を動かしてほしいです。そして、体を動かして健康維持に努めていただきたいと思います。

(加藤)

YU. Y

月曜日と例会に麦の里を利用しています。もう、散歩等の特別対応はなくなり、他の仲間と一緒にどの仕事もこなしています。かなり能力も高く、期待以上の数をこなし、言われなくてもできることが増えてきています。特にバリ取りでは全工程を一人でやり切り、数もこなせてきました。麦の里での降車拒否も全くなり、他害行為も減少傾向で落ち着いてきています。今後もできることが増えてYさんの世界が広がるような支援をしていきたいです。

(岩切)

《療護》

J.I

今年度も発作が安定せず通所はできず、今年度もお届け物で自宅に伺い様子を確認しています。

(川口)

SE.K

体調を崩すこともなく、不随位も発作も少ない1年で元気に通所。姿勢保持と介助者の負担の軽減を目的としてOTと相談して、座椅子を作ってもらい、安定して座位が保ち易くなりました。

(川口)

YO.K

入所施設に入所され、コロナの影響で入所施設から外出できない状態が現在も続いています。

(北村)

YOS.K

2022年2月ごろ交通事故により脊椎損傷、気管切開、下半身麻痺にて車イス生活となった方です。12月19日より退院され自宅改装中入浴できない為、入浴を利用目的で午前だけの利用が始まりました。入浴は気管切開で水が入らないような工夫が必要で、本人と相談しながらリフト入浴ができています。また、本人から入浴中に下肢と背中のリハビリをしてほしいと希望があり、OTと相談し本人主体のリハビリサポートを開始しています。また、仲間とのボーリングを楽しむ機会を作ると皆と遊ぶ場面もありました。

(北村)

C.K

トイレでの姿勢保持は変わらずPTと相談し便器での排尿を促しています。今年も昼食は頑張って左手を使い自分で食べていますが、むせ込みが多く誤嚥に注意が必要です。療護の活動としてはトランポリンを楽しんで飛んでいます。3月、足の腫れもあり表にて通院を行い右足首の骨折が判明。骨折の原因は検討したが不明で、安全面を考慮し移乗介助を2人で行う対策をとるようにしました。

(北村)

ER.K

お母様が亡くなられ、ご家族と相談しながらの利用でした。笑顔は変わらず、ムードメーカーな方でしたが、グループホームの入居が決まり6月に退所されました。とてもさみしくなりました。

(川口)

CH.S

体調を崩すことなく元気に歩いています。1年を通じて体重が減ってきており、今後も変化をみていく必要があります。また、以前よりも「枕で遊びたい」など意思表示がはっきりしています。

(川口)

R.Y

コロナのこともあり、今年度も1度も通所できませんでした。

(川口)

SA.SA

年度後半から通所となりました。週1回木曜日から始まり、現在は、週2回、火・木の通所となっています。ご本人は、静かな場所を好み、療護からスタートしました。作業は、バリ取りや折りなどの簡単でわかりやすい作業に取り組んでいます。作業は、丁寧で、量もたくさんできています。作業後には、素敵な笑顔を見せてくれます。

(川口)

MI.T

2020年経口摂取が再開し安定的に食べることができましたが、2022年10月発熱の為コロナ受診し右肺が白く誤嚥性肺炎と診断。主治医より「今後は経口摂取をしないで全て注入でやるように」と指示が出る。麦の里でも昼食は注入で行っていますが、本人は「まんま」と訴えあります。食事以外での楽しみを増やせるように取り組んでいます。入院期間 2022・10/17～10/27。退院後は痰がらみでゼロゼロありうつ伏せ等で対応してきていますが、12月末ごろよりゼロゼロ改善してきています。また、退院後便秘が原因ではない嘔吐が増えてきており、主治医や栄養士との相談をお願いしています。

(北村)

NA.TA

ハイテンションで食事を食べないこともあり、不眠になることがない1年でした。車いすが大好きでいつも車いすに乗ってみんなの話を聞いています。また、自発的に歩いていくことが増えました。

(川口)

TA.NA

今年度も変わらず大きな体調変化なく麦の里へ通えています。麦の里での活動では積極的に「やりたーい」と表情で表現してくれています。また、松本 OT による姿勢の指導で椅子での座位をチャレンジや、うつ伏せ等で身体のほぐしに取り組んでいます。グループホームへの体験利用も始まり、ホームでは中々寝付けないで寝不足になってしまうことがあります。ホーム利用後は寝不足による唇を噛んでしまうリスクが高まる為、いつも以上に職員一同で様子を気にして活動しています。

(北村)

G.H

昨年は発作のパターンが脱力することが増えてきていましたが、今年度は薬の変更等で発作のパターンは落ち着き以前と同様の硬直の症状に変わっています。また、発作の頻度も減り安定して過ごせています。療護の活動では積極的に体を使った遊びを取り入れて参加してもらっています。また、松本 OT より姿勢保持の指導をしてもらい、色々な活動時にあぐら座位を取り入れています。

(北村)

R.W

大きな体調変化はありませんが、冬に入り臀部の状態が悪く持参の塗り薬で様子見ていましたが改善せず。3月に麦で皮膚科通院を行い、薬処方されてから改善に向かっています。日中の活動では床に降りて拘束をなるべくしない環境で過ごしています。職員との会話で声を出して笑顔を見せ、良い関係性が出来てきています。また、以前は中々立ち上がることが少なかったのですが、今年度は優しく「立つよ」と声掛けで立ち上がってくれ下肢に力を入れられる機会が増えました。

(北村)

共同生活援助 七色の麦

《赤色の麦》

A.U

大好きな職員の出勤を楽しみにしています。「〇〇さんが来てくれて嬉しい」と感情も豊かです。夕方の仲間とお出かけも楽しいようで、仲間の会の途中から立ち上がり「出かけた！」と積極的です。自由時間のかくれんぼでは静かに部屋で隠れたり、職員の弾くキーボードにあわせて歌ったり、Amazon musicで手遊び歌を楽しんだり、職員との会話や仲間の動きで大笑いしたり、自室で昔話のCDを聴いたりしています。保湿ケアは赤みやかさつきはあるものの大分落ち着いてきました。

(山田)

S.K

体調面では酸素は相変わらず数値は低いので、入浴以外はなるべく酸素吸入してもらっています。腹痛や咳がでたりする時は自分ではっきり訴えができ、薬やクッションなどで対応すると納得をして気持ちを切り替えられます。体験の仲間のことを気遣ったり、食事のゆっくりの仲間のお世話がしたくなったりお姉さんのような面もあります。自由時間にはAmazon musicのリモコンを上手に操作してみんなのリクエスト曲をかけてくれていたり、かくれんぼではとても上手に隠れて、職員もびっくりでした。職員にくっついて甘えておふざけをする時もありますが気分の安定につながればいいなと思っています。

(山田)

CH.I.S

今年度4月にケガをして移動がしにくいことがありましたが、その後は良好です。自室で大好きなコーヒーのふたで遊ぶことが多いですが、時々居間に出てきて仲間の会に参加したり、積極的に風呂場に向かう様子も見られます。居間でAmazon musicを聴いているとご機嫌で声をだしたり、松田聖子やサザエさんなど好きな曲がかかるとノリノリになることがあります。50代後半になり健康面にも気を付けていきたいと思っています。

(山田)

NA.T

食事のムラがたまにあり、特に朝食の食べが悪い時があります。水分はなるべく摂ってもらうようにしていますが、定期的に不調になるようです。しばらく食べられない時が続いてだんだん快方に向かうといったパターンです。睡眠も同様にテンションが高くベッドから出てきて眠れないことがあります。ご本人の状態をみて眠剤を服用して眠れています。のんびりタイムでは職員がキーボードをだすと嬉しくて近寄ってきて、鍵盤を弾いたり「パパパ！」とご機嫌な声を出すこともあります。

(山田)

G.H

10月よりフィコンパという抗てんかん薬を服用し発作の回数も随分減少し、夜間の発作も少ないためかよく眠れています。お母様より口腔ケアについてよく歯茎をマッサージして欲しいと要望があり、食後に本人はかなり抵抗していますがいつも以上にマッサージをしています。入浴時の湯船では文字盤を興味深くじっと見ており、他にも興味を示してくれるものを探していきたいです。

(安保)

《緑色の麦》

KO.KA

今年度は真菌性の皮膚疾患などでお母様が心配されました。入浴後と朝塗り薬が欠かせない日が多くありました。本人もかゆがることが多く飲み薬も服用しました。食事で使用したハンカチを自分でワゴンに置いたりキッチンまで持っていったりします。また入浴のとき自分で脱いだ衣類は全てかごの中に入れてくれます。他にもコップを洗いたいと自ら進んでやってくれることもあります。食事も自分で頑張っているようです。今後も自分でできる何かを探していきたいです。

(安保)

KE.NA

苦手な仲間の体験が始まり不調になることが多かったです。そんな中でも夕方外出するときは一緒にいきたいと言う仲間がいるときは絶対に嫌とは言わず「はい。」と一緒に出掛けることを許してくれます。またナースのいない日、おなかに溜まった時は尿器に出せるようチャレンジもしています。今年度も入浴の出来ない日がほとんどでした。入浴できるよう引き続き声をかけていく必要があります。またマイナスなことでも言い方を変えて安心できるような声かけが必要だと思います。

(安保)

T.MU

今年度は週一回のホーム利用でした。そんな中で排尿と睡眠に大変気を使いました。まず排尿についてはなかなかトイレでは出ずトイレの便座も改善してもらい、導尿してもらうこともありました。またうまく出ませんでした。そして布団の中で出てしまうため現在ではオムツを使用しています。また睡眠ではよく眠れず一睡もできないという日もあります。今後ホームの利用回数を増やしていくためにもよく眠れるよう薬のタイミグや環境など考えていかなければならないです。

(安保)

AI.M

睡眠は9時間程とれていますが、眠剤が効きすぎているのか朝食時に居眠りしていることもあり、目がようやく覚めても自分では食べずに、介助でやっと思えることもあり自分のペースですずめています。湯船で職員と湯をかき混ぜて遊ぶことが変わらず楽しいようで、職員が他の人を洗身していると手を伸ばして「遊ぼうよ」とアピール。今年度秋頃から脱衣場の照明が点いていると気になり消しにいくようになりました。離れた席からでも見えるようで、職員を驚かせています。

(山田)

《青色の表》

Y.O.K

言葉数が伸びてきています。ホームでの体験が豊かになるにつれて、その思いを言葉にすることが増えてきた結果だと考えています。同時に周囲から言われたとおりに、ごはんを早く食べてくれなくなりました。お風呂から早く出るのもいやがります。これから自分の意思とテンポを獲得してくれるようになるので、今は彼がその気になってくれるまで、各場面で気長に待っています。

(稲垣)

MA.K

コロナ陽性になったり、胆石発作で動けなくなったりと、大変な事件のあった年でした。そうした事態の中でも、ホームからお医者さんに通えたり、通院のあとホームで静養したりすることができています。ホームでの生活が確立する中で、いろいろな「事件」を乗り越えていく力が身に付いてきています。

(稲垣)

TE.T

「娘と暮らしたい」「家に帰りたい」といいだして、9月末で退所されました。家に帰ってからは、犬を飼い、楽しく過ごせているようなので安心しています。高齢の障害者の生活について考えさせられました。

(稲垣)

NA.M

やっと、ごはんのおかずを「食べれん」と言えるようになりました。自我のそだちが遅いのか、自分の意思が出しにくかったのですが、自分のやりたいことが少しことばになってきています。簡単に「だめだよ」と言わずに、彼のやりたいことを見守り、優しく聞いている毎日です。

(稲垣)

YU.Y

夜中、早朝に突然部屋の模様替えがはじまります。「本当にやりたいこと」や「自分の満足できること」をさがしているかのようです。もともとできることも多く、まわりからかわいがられてきている彼ですから、体験そのものは決して少なくはないのですが、自分一人でも展開していける自分の世界をさがしているのだと思います。

(稲垣)

◎体験メンバー◎

T.A.A

ホームにも慣れたようで楽しく過ごせているようですが「また来てね。」と声をかけると首を横に振ります。それでも食事の運搬をするときワゴンを押すことが楽しいようでいつも嬉しそうに押してくれます。また Amazon Music では楽しそうに音楽を聴いたり歌ったりしています。特に歌詞が出る歌では一生懸命歌っています。楽しいことも増えてきているようです。今年度はホームでの発作もなかったように思います。これからは朝食後余裕をもって排便できるよう時間を取ることと声掛けは必要です。

(安保)

T.O.A

ホームの利用にもすっかり慣れて本領発揮し、やんちゃな面も目に付くことがあります。自分の思い通りにならないことがあると固まったりすることもありますが上手に声掛けすることで本人にも納得してもらうことができているようです。起床時には自分で起きシーツを取って洗濯機に入れてくれたり布団はたためてはいますが部屋の隅によせてくれたりとできることは頑張っやってくれます。自分の悪いところもわかっているようで仲間にも気を使うところを見せてくれる時もあります。これからホームで仲間とどうかかわっていくかが課題です。

(安保)

M.I.K.A

今年度10月からの利用です。初めは七麦に到着しても車から降りるのを嫌がっていましたが、徐々に慣れてきたようです。七麦のトイレ、浴室、居室などの場所や生活の流れもだんだん分かってきたようで、みんなとのんびり過ごしたり、家でよく観ているテレビ番組を楽しそうに視聴したりしています。伝えたい気持ちが強くて、生き生きとお話ししてくれます。これからは実里さんらしく過ごせるように支援していきたいと思ひます。

(山田)

Y.O.K.A

今年度は、昨年度に続き、こばとに入所しているため、七色の麦も利用していない。

(村松)

R.Y.K

体験利用ながら七麦に来ると中心的存在です。仲間からも人気がありいつもより七麦が明るくなるような気がします。時には職員に対しても厳しい突っ込みがあったりもします。入浴の時は特に歩行に気を使って本人も慎重に歩いています。自分で丁寧に洗体していますが足先から洗ったり不十分なところもあつたりします。就寝するときはベッドを使用し足に毛布をまき背中に枕をかって欲しいと要望がありますがそうすることでよく眠れているようです。

(安保)

CH.KU

3月に初めての体験利用を開始しました。リビングにて過ごす際はクッションチェアに座り、顔なじみの職員や仲間もいる事で安心につながっている様子でした。その中で笑顔をよく見せてくれています。入浴は安全を考え2人介助にて移動を行っています。湯船にはゆったり入れ気持ちよさそうでした。睡眠は疲れもあってか朝までよく眠れています。体位変換を2時に行いましたが、すぐ入眠もできていました。(北村)

KE.K

ホームの利用にもすっかり慣れた様子で笑顔で七表に到着できています。夕方や夕食後にAmazon Musicで好きな音楽を聴くときは特に嬉しそうです。職員との入浴も湯船では両手をバシバシと楽しそうです。湯船に浸かる時と上がる時は職員二人で移動しています。食事ではムース食をおいしそうに食べてくれています。睡眠については夜中よく声がしていたりすることがありましたが今年度はよく眠れているようです。2:00の体位交換の時覚醒することもあります。すぐ再入眠し翌朝には声掛けにも反応よく答えてくれ元気に表へ向かいます。(安保)

ER.K

お母様が亡くなられ、体験利用をフルに使って、ほぼ毎日宿泊となりました。とても落ち着いて過ごしていましたが、他事業所のグループホームへの入居が決まり、6月に退所されました。(川口)

A.SA

仲間の会ではアシスタントをして、配膳も「Aがやる!」とお盆に食器をのせるなど積極的です。七夕会にも参加して願い事をかいて笹に飾りつけました。夕食後には床に下りて、仲間と一緒によくAmazon musicで歌を聴いています。「糸」「まちぶせ」など知っている曲もたくさんあり一緒に歌っています。相変わらず睡眠時間は短いですが、朝は居眠りせずに元気に過ごしています。(山田)

M.TA

人見知りがあり、新しい職員に慣れず、泣いてしまうことがありました。10月に誤嚥性肺炎で入院しました。その後から経口摂取が中止となり、楽しみにしていたムース食も食べられなくなりました。最近は、ようやく慣れてきました。安心して体験利用できるように関わっていきたいです。(川口)

TA.NA

今年度8月から体験利用を開始しました。呼吸器をつけての睡眠で、なかなか眠れないことが続いています。咬反射から唇を噛んでしまうこともありました。ご本人が安心して眠れるようにお母様と相談しながら体験利用を継続していきたいです。(川口)

KO.M

長年の他施設のショートステイ利用を経て、3月から体験利用をスタートしました。お風呂、食事等は順調にすることができていました。まだ緊張はあるものの、よいスタートを切ることができています。今後、Mさんのホームでの生活の中で「楽しみ」や「落ち着けるルーティン」が見つけていけるように、回数を重ねて生活に慣れていってほしいと思っています。

(稲垣)

KA.Y

以前より、親御さんからホーム利用の希望がでており、ようやく3月に体験利用をはじめることができました。本人の障害特性を考えて、彼が落ち着いていられる職員の泊まりの日を選んでいきます。期待通りに、レギュラーの仲間との衝突もなく、スムーズなスタートをきるできています。

(稲垣)

RY.W

10月に七色の麦2泊3日の利用で土日初めてのお泊りをしています。入浴は個浴にて入れています。食事はムース食にて完食。活動として床に降りて音楽を楽しんで過ごしています。また、初めての場所でしたが床に降りても嫌な様子なくのびのび過ごさせています。睡眠は自宅とは違うこともあり物音で起きたり寝付けなかったりしていましたが、トータル5時間の睡眠がとれています。

(北村)

麦の里

2022年度(R4)事業総括

2023年度(R5)事業計画

〈2022年度事業計画 掲載〉

昨年度の歩みを
今年度へつなげる為に

今年度の歩みを
来年度へ手渡すために

《2022年度(R4)事業計画》

I 日中活動の中身を充実させよう

【1】☆Aグループは作業を中心の中で、仲間同士の関係を深めていく。

☆Bグループは少しずつ自我が育ってきている。作業を通じてお互いの気持ちを尊重していく。

〔短期目標〕

- ①作業を通じて、仲間たちが他者を意識していくことで仲間同士の関係を深めていく
- ②仲間たちの「興味のあること」や「やりたい事」を日々の活動で知り、共有できるようにする。

〔長期目標〕

- ①仲間の気持ちが引き出せるように、職員主導ではなく、仲間たち自身が主導で話し合いができるように、ケース検討や発達保障の勉強会なども積極的に開く。

《2022年度(R4) 事業総括》

I 日中活動の中身を充実させよう

【1】 ☆Aグループは環境整備をし、少しずつ関係性が深まってきた。また、報告会など仲間主導でできるようになってきている。日課や作業に関しても仲間が自主的に取り組めるようになりたい

【2】 ☆Bグループは少しずつ仲間意識が育ってきた。

お互いの気持ちを知り、大切にしながら日中を過ごせるようにしたい。

- ① Aグループは、これまで人数が多く、落ち着かない環境の中で、トラブルも多かったが、1年をかけ、「部屋を分ける」→「少ない人数のときにみんなの輪に入る」という段階を踏んできたことでトラブルも少しずつ落ち着いてきた。互いに同じ作業をすることでよくトラブルになる仲間たちも少しずつお互いに理解を示し、受け入れている現状には、「作業中心の中で、関係性が深まった」と言える。
- ② A・B・療護グループともに1日の日課、流れが変更となって約1年が経過した。その中で、Aグループでは仲間主導で報告会も行えるようになってきた。
- ③ 新しい仲間を受け入れるにあたって、様々な障害を抱える仲間同士、落ち着いた環境で作業するスペースが今まで以上に取れやすく、七色の麦1階の避難スペースを試験的に作業場所として使用している。
- ④ Bグループは、外の活動に取り組む人数制限をしている。その為、難しい日もあるが、午前か午後のどちらかは室内作業を意識して配置している。外作業への希望が制限よりも多い際には、譲り合いを基本としている。お互いに譲れない際には「順番ノート」を活用している。順番が定着して譲れるようになった一方で年度前半は、「ノート中心」だった。後半は、「自分から進んで」譲ることができるようになりつつある。次の一歩として相談できるようになることが課題となる。
- ⑤ Bグループでは、作業項目を細かくしていくことで職員が連携を取りやすくなった。また、仲間たちも小集団になることでお互いを意識し合える環境ができつつある。さらに深めていくこと・仲間

たちの外に行きたい気持ちを尊重できるように外作業を増やしていきたい。

- ⑥ 11月に新型コロナのクラスターにより施設閉鎖となったことから対策として職員がおやつやお茶の用意をするようになった。A・Bともにルール変更をしたが、仲間たちはその都度、柔軟に対応してくれた。
- ⑦ 報告会で、お互いに仕事の内容や進捗状況を報告することが定着したことで、お互いに協力し、仕事の納期やノルマを達成できた。そのことで、“協力する”という仲間意識が深まった。
- ⑧ 麦の里で、ケース検討や発達保障の勉強会は開けていない。

《2023年度(R5)事業計画》

I 日中活動の中身を充実させよう

【1】 Aグループは、報告会を仲間主導で行えるようになってきた。
仲間たちが作業にも日課にも自主的に取り組めるように、
日々の報告会での申し送りを大切にする。

【短期目標】

- ① 作業内容を丁寧に確認し、目標を立てる。
- ② 日々の振り返りの時間を大切に、お互いの行った作業の内容、進捗具合を報告し合い、把握する。
- ③ 司会をはじめ、作業や日課を仲間たちで自主的にできるようにしていく。
- ④ 例会に参加できない仲間たちから平日にレクリエーションの取り組みを仲間たちと話し合っていく

【長期目標】

- ① 職員主導ではなく、仲間たち自身が主導で話し合いが持てるようにしていきたい。

【2】 Bグループは少しずつ仲間意識が育ってきた。

相談の中で仲間の気持ちを引き出し、日々の相談を重ねていく中で
お互いの気持ちを大切にできるようにしていきたい。

【短期目標】

- ① 朝の作業決めの場面では、「ノート」を活用しつつ、相談できる機会を作っていく。
相談を意識していくことでお互いの気持ちを尊重できるようになりたい。
- ② 仲間たちの「興味のあること」や「作業の中でのやりたい工程等」を日々の活動で知り、
仲間の報告会や職員の振り返り等で共有できるようにしていく。
- ③ 作業項目を3～4つにして小集団を作ることで、仲間たち同士がお互いに協力できるような
場面を設けられるようにしていく。
- ④ 外作業に行きたい仲間も多く、「行きたい」気持ちを尊重できるように外作業を増やしていきたい(各作業担当の工夫が必要)。

【長期目標】

- ① ノートの活用が必要なくなるように「相談」を充実させる。

《2022年度(R4)事業計画》

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

☆仲間たちがいきいきと過ごせるように療護の活動を充実させていく

〔短期目標〕

- ① 毎日の取り組みを前日には決めておくことが定着してきた。活動の中身を職員間で共有できるようにしていく
- ② 1年の取り組みを計画して、見える化する。
- ③ 職員研修に積極的に参加。他施設の見学へ出掛ける。
- ④ 第3号研修資格取得者が実際に吸引等実施できるように体制を整備する。
- ⑤ 療護での取り組みの方向性を確認するためにも、療護会議というものを定期的に行っていきたい。

〔中長期目標〕

- ① 医療的ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第2号／第3号研修の資格取得者を増やしていく。
- ② 療護の職員から主任を選抜する。

《2022年度(R4) 事業総括》

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

☆「食ること」「飲むこと」「排泄」「姿勢保持」そして「入浴」は、安定してできるようになりました。だから…

もっと新しい「療護」を目指して、活動内容を充実させたい

- ① 6月に仲間が1名退所した。お母様が2022年3月に亡くなり、自宅近くの365日開所しているホームに移籍。生活介護を利用するということになった。
- ② 初めて療護会議というものを今年度2度開催でき、今後について話し合いを行った。
- ③ 1年の取り組みについては、月末に仲間との話し合いを行うと話が進んでいる。
- ④ 体幹あそび(トランポリンなど)、散歩、作業など様々な取り組みをしていく中で、身体を触る・ほぐすなどの取り組みが減ってしまった。他の取り組みとバランスを取りながらそのような機会を増やしていきたい。
- ⑤ 作業となると「作業しよう」→「作業させよう」となりがちになる。職員がどうしたらよいか？悩むことも多かった。作業の中でも「出来高」よりも「本人がこうしたらやりやすい」など作業の中でも姿勢や身体の動きを意識していくことを大事にしたい。
- ⑥ 職員研修・他施設の見学は、コロナ禍もあり出かけることができていない。
- ⑦ 第3号研修資格取得者が実際に吸引等実施できるような体制はとれなかった。
- ⑧ 医療的ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第2号／第3号研修の資格取得者は増やせなかった。
- ⑨ 療護の職員から主任は選抜できていない。

《2023年度(R5)事業計画》

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

仲間たちが楽しいだけでなく、リラックスして身体をほぐしてあげられるような体操を定着させたい。

【短期目標】

- ①PT、OTが計画してくれている体操を早くに取り入れられるようにする。
- ②1年の取り組みを計画して、掲示物として見える化する。
- ③職員研修に積極的に参加。他施設の重度重複施設への見学へ出掛ける。

【中長期目標】

- ①医療的ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第2号／第3号研修の資格取得者を増やしていく。

《2022年度(R4)事業計画》

【3】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

〔短期目標〕

- ①仲間の会で、仲間たち自身から「こういう話をしたい」「こういう仲間の会を開きたい」と自発的に出てくるようにしたい。
- ②PTやOTと連携しながら、仲間の身体のことを個別に相談していく。
- ③仲間たちの生活面について、仲間たちと話し合えるようにしていく。
- ④職員間でも、問題意識の共有を図っていく。

〔中長期目標〕

- ①仲間たちと、「親亡き後」の生活について話し合っていきたい。

《2022年度(R4) 事業総括》

【3】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

- ①仲間の会に限らず、各グループ様々な場面で話し合いを持てた。
A・Bグループともに仲間の会は定期的な開催とは至らなかった。仲間たちの「やりたいこと」は、今年度も続けて例会活動として取り組んできた。一方で、Aグループでは例会に参加しない仲間たちからは、レクの希望が出てきているので、今後どうしていくのか課題として挙げられる。
- ②PT、OTと連携して車いす、仲間の姿勢など個々の対応をしている。
- ③仲間たちの定期通院や急な疾患に対して、通院補助を変わず実施した。
- ④整容のため入浴している男性、血行促進のため足浴の男性、中途障害で外部から自宅のリフォームの期間入浴のみ通いとしている男性、計3名安定している。
- ⑤新型コロナにより過去2年、他団体バザーは軒並み中止だったが、今年度は少しずつ開催しているところもあり、感染対策をしながら年4回ほど参加。また、やすらぎ会館・市役所のマルシェにも参加した。今後、出店機会は増えてくることが予想されるので、仲間の参加も検討していきたい。
- ⑥今年度は男性が1名、成人となり「成人式」を行った。主役の本人が長い間、座ってられるか不安もある中だったが、ご本人も座って参加することができ、成長を感じた。来年度は、成人の仲間がいないが、「お楽しみ」という形で取り組むか検討していく。避難訓練を12月と3月に実施。今年度は、ヘルメットを使用しての訓練。ヘルメットの使い方などまだまだ練習が必要。来年度も取り組みを継続していく。
- ⑦仲間たちと親亡き後の生活について、どうしていきたいか話し合えていない。

《2023年度(R5)事業計画》

【4】自分の生活について考えよう。

自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを
仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

〔短期目標〕

- ①今後も仲間の会にとらわれず、いつでも話し合いがもてるように環境を整えておく。
- ②PTやOTと連携しながら、仲間の身体の話は、個別に相談していく。
- ③職員間でも、今ある問題、今後の課題意識の共有を図っていく。
- ④新型コロナウイルスの規制が緩くなり、パザーやお楽しみ会・レクリエーションの取組みの再開について検討していく。

〔中長期目標〕

- ①仲間たちと親亡き後の生活について、どうしていきたいか話し合っていきたい。

《2022年度(R4)事業計画》

Ⅱ 職員体制の充実

【1】第2麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる。

〔短期目標〕

- ①日中職員は充足してきている為、ホームに関われる職員、特に「早番」「遅番」が可能な職員の確保を、引き続き目指していく。(ホームページの充実と活用等で、人材募集を掛けていく。)
- ②『第2麦の里』実現に向けて話し合いを深めていく。職員も確保していく。
- ③仲間たちの活動・支援について中身を深めていくために職員会議やミーティングで仲間のケース検討をしていく。

〔中長期目標〕

- ①施設建設のための資金の調達を行う。
- ②看護師の増員、喀痰吸引可能な職員の増員を目指す。

《2022年度(R4) 事業総括》

Ⅱ 職員体制の充実

【1】第2麦の里建設を目指して、日々の活動を安定させる。

- ①職員体制が充実。遅番職員が朝から出勤することはなくなった。一方で、早番・遅番ができる職員の確保には至らず、一部の職員に負担がかかっている。
- ②第2麦の里に向けて具体的な中身は詰めきれてはいないが、設計図を作成中。
- ③正職員・準正職員の人数が増えたことでミーティングを特記事項中心で行うようになり、特に気になること・話し合いたいことを中心に取り組んでいる。また、職員会議においても仲間のことについて話し合い、共有している。
- ④今後の第2麦の里を見据えていくと職員のレベルアップ・チームワークが求められる。
- ⑤30代の男性職員が主だが、欠勤が続いた職員が出たことから「欠勤職員」のポイント制度を導入した。
- ⑥2021年度採用した「特定技能実習生」職員の紹介で「特定技能実習生の受け入れを拡大」を決定。年度末より1名採用した。また、派遣職員の直接契約職員として採用していく予定。
- ⑦2021年度から始まった「準正職員」の制度は、今年度準職員が6名増えた。今後も増えていくことが想定される中で、「正職員」と「準正職員」の職務分担・違いについてもっとわかりやすくし、組織として職務分担の見直しが必要。
- ⑧今年度は、喀痰吸引ができる第2号／第3号の資格取得者はいなかった。
- ⑨今年度もコロナ対策の為、就職フェアには1回も参加していない。
- ⑩職員の作業担当者の入れ替えは未だ進んでおらず、担当者の負担は偏っている。

《2023年度(R5)事業計画》

Ⅱ 職員体制の充実

【1】第2麦の里建設を目指して、職員の業務分担を整理する。

〔短期目標〕

- ①日中職員は充足してきている為がホームに関わる職員、特に「早番」「運番」が可能な職員の確保をしていく。(職員の紹介等で募集を掛けていく。)
- ②第2麦の里、実現に向けて具体的に中身を詰めていく。
- ③職員会議の時間等で、仲間のケース検討を行っていく。
- ④準正職員と正職員の業務内容等の違いを規定としてまとめる。
- ⑤夕方の清掃箇所を簡略化して、翌日のハウスキーパーへの依頼とする。
- ⑥送迎に関して、可能なパート職員の方にも依頼していく。

〔中長期目標〕

- ①施設建設のための資金の調達をバザー活動、募金活動で行う。
- ②看護師の増員、喀痰吸引可能な職員の増員を目指す。

《2022年度(R4)事業計画》

【2】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

〔短期目標〕

- ①研修の情報を事前に提示していく。たくさんの職員が参加できるように促していく。
- ②他施設との交流や見学を通して、情報を入手していく。
- ③「行動援護支援者研修」は、引き続き、積極的に参加していく。
- ④サービス管理責任者の資格取得者を、引き続き増やしていく。

〔長期目標〕

- ①「介護福祉士」「社会福祉士」ならびに「第2号／第3号喀痰吸引研修」などの資格について取得希望の職員を応援していく。

《2022年度(R4) 事業総括》

【2】スキルアップのために職員研修に積極的に参加していく

- ①コロナ対策の為、多くの研修がリモート中心となった。
- ②強度行動障害者支援の為の行動援護支援従事者の研修には今年度参加できず。
- ③サービス管理責任者は、1名資格取得、1名資格更新となった。
- ④3月に虐待防止・身体拘束等適正化委員会、感染症・食中毒防止対策委員会を年度末に開催した。
- ⑤10月から12月に看護学生32名を、7日間に分けて実習の受け入れを主にBグループ、療護グループで行った。

《2023年度(R5)事業計画》

【2】スキルアップのために職員研修に積極的に参加していく

〔短期目標〕

- ① 研修の情報を事前に提示し、行動援護支援者研修等に職員が参加できるように促す。
休日は負担になるので、平日に研修が出せるようにしたい。
- ② 他施設との交流や見学を通して、良い点をもっと麦の里に取り入れる。
- ③ サービス管理責任者の資格取得者を、今後も増やしていく。

〔長期目標〕

- ① 「介護福祉士」「社会福祉士」ならびに「第2号／第3号喀痰吸引研修」などの資格取得希望の職員を応援していく。

《2022年度(R4)事業計画》

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

〔短期目標〕

- ①「意義のある毎日のミーティング」を目指す。単なる「報告」ではなく、振り返りが行えるように、ミーティングのあり方、方法を再検討する。
- ②準正職員と正職員の業務内容等の違いを規定としてまとめる。
- ③夕方の職員の清掃箇所を一部簡略化して、翌日のハウスキーパーへの依頼とする。
- ④送迎に関して、可能なパート職員の方にも依頼していく。

〔中長期目標〕

- ①『第2麦の里』の開所を、具体的な日程として年度スケジュールに盛り込む。そのための準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく。

《2022年度(R4) 事業総括》

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体制を整えていく。

- ①A・B・Rに分かれてのミーティングから、全体で特記のみの振り返りが定着し、「気になること」「話したいこと」を中心に共有を図っている。これにより、約1時間の短縮となった。また、他のグループのことも共有できる機会として、開始時間を早めて、早く帰る職員とも話し合えるようにしていきたい。
- ②主任2人で1日の仕切りを回し、日々の連絡事項を申し送り用のホワイトボードを活用して職員間で共有を図った。
- ③日中の職員が確保できている際に、必要な正職員を事務に戻すことが定着してきた。そのため、職員の残業時間は減った。その一方で、主任会議は回数が減った。職員会議を意義あるものするためにも主任会議の頻度は増やしたい。
- ④新人職員が増えている中で、麦の里ではこれまでも教育係の職員を設けず、現場で先輩職員が教えてきた。人数が増えてきた中で、現場だけではフォローしきれない部分があり、新人職員にとっては、不安を抱えたまま現場に入らせてしまっていることが多かった。教育係の職員をつけていきたい。
- ⑤今年度、グループホーム職員での会議はできていないが、1月にグループホームを利用しているレギュラーメンバーの保護者会を行い、今後の課題等について保護者と職員で共有できた。
- ⑥ほぼ毎週の金曜日に行っていた職員会議は、ほぼ隔週となった。夜勤等で参加できない職員もいる中ではあったが、会議記録を通して職員間で共有している。
- ⑦個別におしりふき、汗ふきタオル、口拭きタオルを持参してきてもらうことも2年目となりすっかり定着した。それにより、洗濯物が減り、職員の業務が簡素化された。
- ⑧夕方の仲間の送迎をパート職員にも依頼してみたが、進展は無かった。今後も依頼していく。

《2023年度(R5)事業計画》

【3】いつでも連携を取れるように、職員間のコミュニケーションを大切にする。

〔短期目標〕

- ①「意義のある毎日の振り返りを目指す。単なる「報告」ではなく、共有して振り返ることができるように、夕方の時間のあり方、方法を再度検討する。
- ②職員同士、仲間に関することについて、いつでもグループの垣根を越えて疑問に思ったことを相談できる環境を整えていきたい。

〔中長期目標〕

- ① 第2麦の里の開所を、具体的な日程として設定する。そのための準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく。

共同生活援助事業 七色の麦

《2022(R4)年度 事業計画》

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

①個々の生活リズムの安定

週に一泊の仲間、泊まれない仲間がいる。週末に家に帰れない仲間もでてきている。

その仲間たちのリズムにあわせて七麦をつかってもらっていく。

生活の場なので、個々が身につけているやり方を尊重していく。

②赤・緑・青色の麦の4泊5日の継続と緊急時の対応もしていく

4泊5日の継続と、祭日にも半日開催できるように日程を作っていく。

また、緊急時の対応がますます求められるようになってきている。

できる限り対応していく。

《2023(R5)年度 事業総括》

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

① 個々の生活リズムの安定

・健康の維持に課題のある仲間が多い中で、調子を崩す仲間はほとんどいませんでした。

毎日の申し送りの中で、投薬等しっかりと取り組んでいます。

・食事、入浴、排泄の世話に追われるだけでなく、夜のゆったりとした時間の過ごし方に工夫ができるようになってきています。七色では音楽、青色ではトランプを日常的に楽しんでいます。

② 赤・緑・青色の麦の4泊5日の継続と緊急時の対応

・両ホームとも、4泊5日を年間通じて継続できました。それだけでなく、月に1回ではありましたが5泊6日を実現してきました。また、祭日にかけての半日開催も実行できました。

・母親の亡くなった仲間のための365日ホームの実現はできませんでしたが、コロナ対応のために、土日もホームを開設しました。コロナ陽性者が多数出た時には、通常のホームを休み、家に帰れない陽性者の仲間2名のために、感染対策をしながらホームを継続しました。

2023(R5)年度 事業計画

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

① 個々の生活リズムの安定

個々が身につけているやり方を尊重しながら、ホームで安定して過ごしてもらうことが、常に第一の目標であることはかわらない。ホームに来たことで仲間が体調を崩すことがないようにする。

② 5泊6日の増加と、新しい仲間との関係作り

レギュラーメンバーの泊数の増加も強く要望されており、5泊6日の開催を増やしていく。また、体験利用のメンバーも増えてきており、その仲間との関係作りも大事な課題になってきている。

《2022(R4)年度 事業計画》

2、集団生活の中で「ルール」作り

①集団生活の中で仲間同士の関係を深めていく

七色の麦ではカラオケ、青色の麦ではトランプなど、仲間たちが複数で楽しむことが増えてきている。トラブルがないわけではないが、見守りながら、取り組みを続けていきたい。

②集団の中にも仲間たちの自発的な取り組みを大事にしていく

クリスマスがしたい、誕生日がしたい等の行事をおぼえて仲間たちから提案が出ている。また、麦の里まで歩きたい等の希望もあり、できるだけ対応していきたい。

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

①体験利用の仲間たちに安定して七麦で泊まってもらう

- ・母親を亡くした仲間をまず優先して体験利用を使ってもらおう。その間、他の仲間の体験利用は停止してもらおうよう麦の会のなかで話してもらっている。この仲間については土日の利用も含めできる限り対応する。
- ・ただ、この間の話し合いの中で、体験利用の希望が大変に高いことも痛感されており、従来からの体験利用の早期の復活と新規の体験利用の拡充が急務となっている。その体制の構築が必要。

《2023(R5)年度 事業総括》

2、集団生活の中で「ルール」作り

① 仲間同士の関係を深めていく

- ・赤・緑色の麦は、言葉がない仲間が多い中でも、一緒に楽しむ時間を多く作る事ができました。「話し合い」をキーワードに、希望があれば話し合う、順番を決めるために話し合うことを大切にしています。
- ・仲間同士でトランプの約束をすることができました。職員と話すだけでなく、仲間同士が意識し合うことが、少しずつできてきています。

② 集団の中にも仲間たちの自発的な取り組みを大事にしていく

- ・赤・緑色の麦は、コロナの中でも、行事がある程度定着し、夏のお楽しみとして花火をし、冬にはクリスマス会をしました。投薬やおやつについて、継続したケアが必要な仲間が多いので、個別の対応にもきめ細かく対応してきました。
- ・青色の麦は、遊びのための仲間同士の会話が少しですが増えました。他の仲間の話したことをオウム返しする仲間もいて、互いに意識し合う様子が見られます。

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

① 体験利用の仲間たちに安定して七麦で泊まってもらう

- ・母親を亡くした仲間の体験利用での対応は5月で終了、残念なことにこの仲間は退所しました。

《2023(R5)年度 事業総括》

2. 集団生活の中で「ルール」作り

① 集団生活の中で仲間同士の関係作り

・ホームレギュラーの仲間たちが複数で楽しむことが増えてきている。トラブルをおそれず、取り組みを続けていく。また、体験利用の仲間も増加しており、ホームの仲間の輪の中に入ってもらえるようにする。

② 自発的な取り組みや個別の取り組み

・仲間たちからの行事の提案、取り組みの提案を大事にしていく。
・特別食やそれぞれの服薬への要望も取り組んでいく。
・看護職の夜勤職員が増えており、医療的ケアの必要な仲間の利用も積極的に取り組んでいく

3. 体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

① 体験利用者を増やす。泊数を増やす

・体験利用者を増やすことがなかなかできてこなかったが、昨年度半ばから新しい体験利用の受け入れを始めている。さらに多くの体験利用者を受け入れていく。
・母親の不調から、2泊以上の体験利用を受け入れることがあったが、かわらず相談に応じていく。

《2022(R4)年度 事業計画》

4、職員体制の確立と業務の確立

① 連絡体制の確立

- ・七色の麦の職員会議を年に4回程度は開催したい。
- ・申し送り事項を翌日、翌々日の職員にも伝えられるようにしていく
- ・ホームからの報告が日中の職員に連絡されていないことも多かったので、改めて連絡に注意する。

② 職員確保

- ・緊急対応の要請が急増しており、夜勤のできる職員の確保がぜひとも必要。
- ・同時に、今の職員で、夜勤をできる人の養成も必要。

③ 緊急時の対応

- ・緊急事態に柔軟に対応するために、意識のある職員の活用が必須であり、その体制の構築が必要。

《2023(R5)年度 事業総括》

4、職員体制の確立と業務の確立

①連絡体制の確立

- ・毎朝の申し送りを副施設長に固定する事により、職員間の連絡・申し送りの体制がようやく安定しました。
- ・ホーム職員の職員会議は、年度総括のための2回の開催にとどまりましたが、その会議自体は大変に好評でした。

②職員確保

- ・コロナの影響から、週に2回必ず夜勤をしてくれていた女性準正職員が夜勤に入れなくなり、また、女性正職員が一人12月末で退職したことから、シフトづくりに苦勞した一年でした。6月に入った女性正職員が夜勤に入り、9月に入った女性準正職員が早番・遅番に入る事で、なんとかシフトは維持できています。
- ・また、青色の麦では、二人の職員で4泊のシフトをこなし、安定しています。

③緊急対応の体制づくり

- ・ホームの特性として、急な泊まりへの対応、コロナへの対応など、柔軟な体制づくりが必要であることを痛感した1年でした。
- ・現在のところ、緊急事態への対応は、理事長・施設長等の役員が中心になっているのが実情です。幸いなことに、緊急対応をいとわない職員も多数いるので、来年度にかけて、その職員の柔軟な活用体制の構築が必要になります。

《2023(R5)年度 事業計画》

4、職員体制の確立と業務の確立

① 日常の連絡業務

- ・七色の麦の職員会議を年に4回程度は開催したい。
- ・申し送り事項を翌日、翌々日の職員にも伝えられるようにしていく
- ・ホームと日中施設との連絡はかわらず課題となっている。とりくんでいく。

② 職員確保

- ・夜勤のできる職員を増やすことはかわらず大きな課題。
- ・麦の里に新に夜勤のできる職員も入職しており、技量を養ってもらい、早期にホームの業務に入れるようにしていく。

2022年度 活動報告書

	妻の里全体	作業・療護活動・仲間会など	個別の対応	地域/協力他団体などに関する活動	職員会議など職員の動き	法人妻の動き	七色の妻	妻の会および保護者の会
4月	4. 職員希望者面接 6. 消防点検 7. 害虫駆除 11. 訪問歯科 14. 相談支援員訪問 15. 証明LED化工事 25. スカッシュトイレ清掃 30. 浄化槽修理 ※仲間健康診断…13. 14. 15. 18. 19. 20. 21. 25. 27. 28 ※職員健康診断…15. 18. 19. 21. 25. 27 ※浅野Dr往診日…14. 28	11. 床屋デー 機関紙発送 26. 北山地区廃品回収	12. 計画相談 13. 利用者通院付き添い 14. 相談支援員訪問 15. モニタリング 計画相談 利用者通院付き添い 18. 認定調査 19. 利用者通院付き添い 20. モニタリング 22. 利用者通院付き添い 26. 計画相談 27. モニタリング 28. ケースカンファレンス	8. せと福祉マルシェ出店 23. ワールドフード ふれ愛フェスタ(WFF)出店	1. 会計日 4. 会計日 8. 新人職員オリエンテーション 11. 職員面談 13. 職員面談 15. 職員面談 18. 職員面談 22. 機関紙会議 主任会議 28. 会計日 ※職員会議…1. 4. 8. 15		6. 青色の妻 お花見 七色の妻 お花見 七色の妻 消防点検 ※あいかん来所日(青色の妻) …12. 26 ※あいかん来所日(七色の妻) …5. 12. 19. 26	2. 妻の会 定例会 23. 役員会
5月	5. 害虫駆除 13. 職員希望者面接 19. 浄化槽点検 20. 訪問診療 加茂特別支援学校 実習打ち合わせ 23. 訪問歯科 29. 職員希望者面接 30. スカッシュトイレ清掃 ※仲間健康診断…2. 6. 9. 11. 20. 25. 27 ※職員健康診断…6. 11 ※浅野Dr往診日…19	7. 夏物資打ち合わせ 30. 東濃特別支援学校 夏物資チラシ配達 春日台特別支援学校 夏物資チラシ配達 豊田特別支援学校 夏物資チラシ配達 31. 北山地区廃品回収 瀬戸特別支援学校 夏物資チラシ配達 瀬戸つばき特別支援学校 夏物資チラシ配達	6. 計画相談 10. 計画相談 12. 認定調査 17. 利用者通院付き添い 18. 認定調査 利用者通院付き添い 19. 計画相談 30. 認定調査	11. わいわいフリーマーケット出店	8. 愛障協総会2名参加 12. 主任会議 ※職員会議…2. 6. 7. 13. 20	19. 法人監査 26. 理事会	13~15. コロナ濃厚接触者 待機利用 ※あいかん来所日(青色の妻) …17. 31 ※あいかん来所日(七色の妻) …10. 17. 24. 31	7. 妻の里 定例会 28. 役員会
6月	2. 害虫駆除 6~17. 加茂特別支援学校3年生 実習生1名受入 10.14.15. 加茂特別支援学校3年生 実習生1名受入 17. エレベーター点検 訪問診療 20. 訪問歯科 27. スカッシュトイレ清掃 29. 職員希望者面談 30. 瀬戸特別支援学校 見学者1名受入 ※仲間健康診断…2. 3. 7 ※浅野Dr往診日…9. 30	10. 機関紙配送 13. 床屋デー 24. A組仲間の会 28. 北山地区廃品回収	3. 利用者通院付き添い モニタリング 7. 利用者通院付き添い 9. 認定調査 10. 利用者通院付き添い 14. 計画相談 利用者通院付き添い 15. 利用者通院付き添い 16. モニタリング 17. 利用者通院付き添い 20. 利用者通院付き添い モニタリング 22. モニタリング 27. 計画相談 28. 認定調査 29. 利用者通院付き添い	7. 猫エコバッグ贈呈式 10. せと福祉マルシェ出店	3. 会計日 主任会議 新人職員研修 24. 給食業者 試食会 28. 第2妻の里 設計会議 ※職員会議…3. 10	23. 評議員会 28. 設計会議	7. 個人面談 13. 七色の妻、青色の妻 浄化槽点検 17. 七色の妻 エレベーター点検 21. 青色の妻 お楽しみ会 ※あいかん来所日(青色の妻) …14. 28 ※あいかん来所日(七色の妻) …7. 14. 21. 28	4. 妻の里 総会 25. 役員会

	麦の里全体	作業・療護活動・仲間の会など	地域/協力他団体などに関する活動	職員会議など職員の動き	法人会 会議など	七色の麦	麦の会および保護者の会	
7 月	7. 害虫駆除 9. 職員希望者1名見学 11. 訪問歯科 13. 看護学生2名受入 15. 訪問診療 19. コロナワクチン接種 4回目 20. 瀬戸特別支援学校 見学者3名受入 23. エレベーター点検 25. 他事業所見学 スカッシュトイレ清掃 26. 職員希望者面談 27. 見学者3名受入 ※浅野Dr往診日…14. 28	13. 豊田特別支援学校 夏物資配達 15. 瀬戸・春日台特別支援学校 夏物資配達 19. 瀬戸つばき特別支援学校 夏物資配達 26. 北山地区廃品回収 29. 東濃特別支援学校 夏物資配達	8. モニタリング 12. 利用者通院付き添い 14. 利用者通院付き添い 15. 利用者通院付き添い 20. モニタリング 25. 認定調査 27. 利用者ワクチン接種付き添い 29. 利用者通院付き添い		1. 会計日 4. 機関紙会議 28. ケースカンファレンス 29. 会計日 ※職員会議…1. 8. 22. 29	12. 設計会議 27. 設計会議	22. 体験利用希望者面談 29. 体験利用希望者面談 ※あいかん来所日(青色の麦) …11. 19 ※あいかん来所日(七色の麦) …5. 11. 19. 27	9. 麦の会 定例会 30. 役員会
8 月	1. 利用希望者面談 2. 瀬戸特別支援学校リモート研修 3. エレベーターロープ交換 4. 害虫駆除 11~14. 麦の里夏休み 19. 訪問診療 コロナワクチン接種 4回目 22. 訪問歯科 23. 浄化槽点検 26. 見学者5名受入 27. 職場体験実習1名受入 29. スカッシュトイレ清掃 30. エレベーターロープ点検 ※仲間健康診断…19 ※浅野Dr往診日…18	1. 瀬戸つばき特別支援学校 夏物資配達 8. 床屋デー 15. 機関紙配達 30. 北山地区廃品回収	2. 利用者通院付き添い 3. 利用者通院付き添い 4. 利用者通院付き添い 5. 利用者通院付き添い 8. 認定調査 9. 利用者通院付き添い 17. 計画相談 23. モニタリング 25. 計画相談 31. 計画相談 認定調査		※職員会議…5. 10. 26		5. 体験利用希望者面談 9. 体験利用希望者面談 10. 体験利用希望者面談 15. 体験利用希望者面談 七色の麦 花火大会 24. 青色の麦 お楽しみ会 ※あいかん来所日(青色の麦) …9. 29 ※あいかん来所日(七色の麦) …2. 9. 25. 29	6. 麦の会 定例会 27. 役員会
9 月	1. 害虫駆除 2. 職員希望者面接 11. 職員希望者1名見学受入 12. 訪問歯科 13. エレベーター点検 14~16. 東濃特別支援学校3年生 実習生1名受入 15. 訪問診療 26. スカッシュトイレ清掃 29. 職員希望者面談 30. 見学者1名受入 ※浅野Dr往診日…15. 29	21. 冬物資打ち合わせ 27. 北山地区廃品回収	7. 計画相談 12. 認定調査 15. 利用者通院付き添い 16. 利用者通院付き添い 21. 認定調査 27. 利用者通院付き添い	28. 瀬戸特別支援学校進路懇親会 1名参加	2. 会計日 3. 職員面談 5. 社会福祉協議会社会就労センター部会 職員研修会1名参加 11. 職員面談 12. 職員面談 15. 安全運転管理責任者研修1名参加 27. サービス管理責任者研修1名参加 30. 会計日 ※職員会議…2. 9. 30		6. 個人面談 13. 七色の麦 エレベーター点検 27. 個人面談 28. 青色の麦 お楽しみ会 ※あいかん来所日(青色の麦) …13. 29 ※あいかん来所日(七色の麦) …6. 13. 20. 29	10. 麦の里 定例会 24. 役員会

	麦の里全体	作業・療養活動・仲間の会など	個別の対応	地域/協力他団体などに関する活動	職員会議など職員の動き	法人麦の動き	七色の麦	麦の会および保護者の会
10月	5. 浄化槽点検 6. 害虫駆除 7. 利用希望者面談 瀬戸特別支援学校 実習打ち合わせ 8. 職員希望者面談 11. 瀬戸特別支援学校 実習打ち合わせ 13. 運転手希望者面談 エレベーターロープ点検 13~14. 加茂特別支援学校3年生 実習生1名受入 14. 瀬戸特別支援学校 実習打ち合わせ 17. 訪問歯科 17~26. 瀬戸特別支援学校2年生 現場実習4名受入 18. 看護学生3名実習受入 水道工事 19. 看護学生6名実習受入 東濃特別支援学校見学者受入 21. 看護学生6名受入 瀬戸特別支援学校実習希望者1名見学受入 訪問診療 22. 運転手希望者面談 24. 消防点検 訪問診療 スカッシュトイレ清掃 27. 看護学生5名実習受入 28. 消防点検 31. 看護学生6名実習受入 ※浅野Dr往診日...13. 27	11. 機関紙発送 13. 瀬戸特別支援学校 冬物資チラシ配達 豊田特別支援学校 冬物資チラシ配達 瀬戸つばき特別支援学校 冬物資チラシ配達 17. 床屋デー 19. 春日台特別支援学校 冬物資チラシ配達 20. 東濃特別支援学校 冬物資チラシ配達 25. 北山地区廃品回収	3. 認定調査 4. 利用者通院付き添い 5. 計画相談 12. 計画相談 利用者通院付き添い 17. 家庭訪問 18. 利用者通院付き添い 19. 利用者通院付き添い 20. モニタリング 21. 利用者通院付き添い 計画相談 28. 利用者通院付き添い モニタリング 29. 家庭訪問 30. 家庭訪問 31. 家庭訪問	8. 交流フェスタ2022出店 16. 品野めぐも里祭り出店	3. 新人職員オリエンテーション 4. サービス管理責任者研修1名参加 7. 主任会議 26.27. サービス管理責任者研修1名参加 ※職員会議...7. 21		5. 七色の麦、青色の麦 浄化槽点検 24. 七色の麦 消防点検 26. 青色の麦 お楽しみ会 28. 七色の麦 消防点検 ※あいかん来所日(青色の麦) ...4. 25 ※あいかん来所日(七色の麦) ...4. 11. 19. 25	9. 麦の会 定例会 29. 役員会 29. 役員会
11月	1. 職員希望者面談 看護学生5名実習受入 3. 害虫駆除 5. 成人を祝う会 7. 職員希望者面談 10. 東濃特別支援学校 実習打ち合わせ 新規利用者1名受入 11. 利用相談 13. エアコンフィルター掃除 14. 訪問歯科 16~18. 東濃特別支援学校3年生 実習生1名受入 17. インフルエンザワクチン接種 18. 浄化槽点検 18~22. コロナにより施設休所 21. 東濃特別支援学校2名見学 22. エレベーターロープ点検 24. 職員希望者面談 25. 訪問診療 28. スカッシュトイレ清掃 ※浅野Dr往診日...17	7. R組仲間の会 29. 北山地区廃品回収	2. 計画相談 12. 家庭訪問 16. 認定調査 17. 利用者通院付き添い 18. 利用者通院付き添い 19. 利用者通院付き添い 21. 家庭訪問 22. 利用者通院付き添い 25. 利用者通院付き添い 30. 計画相談	11. まつとつながる祭り打合せ 11~14. 特別支援教育展参加	1. サービス管理責任者研修1名参加 2. 会計日 11. 主任会議 28. 新人職員オリエンテーション ※職員会議...2. 25	10. 理事会 評議員会	18~26. コロナ陽性者利用期間 ※あいかん来所日(青色の麦) ...1. 22 ※あいかん来所日(七色の麦) ...1. 8. 16. 22	5. 麦の会 定例会 26. 役員会
12月	1. 害虫駆除 1~2. 瀬戸特別支援学校2年生 実習生1名受入 5. 避難訓練 6. エレベーター点検 7~9. 東濃特別支援学校実習生1名受入 8. インフルエンザワクチン接種 2回目 職員希望者面談 見学者1名受入	9. 瀬戸特別支援学校 冬物資配達	1. ケースカンファレンス 6. 計画相談 利用者通院付き添い 7. 利用者通院付き添い 計画相談 9. モニタリング	1. 寄贈品(鶏肉)贈呈式 8. やすらぎマルシェ出店	2. 会計日 9. サービス管理責任者研修1名参加		6. 青色の麦 避難訓練 七色の麦 エレベーター点検 7. 青色の麦 お楽しみ会	3. 麦の会 定例会

	麦の里全体	作業・療護活動・仲間の会など	個別の対応	地域/協力他団体などに関する活動	職員会議など職員の動き	法人麦の動き	七色の麦	麦の会および保護者の会
12月	12. 訪問歯科 13. 保健所/パン工房視察 14. 職員希望者面談 16. 訪問診療 コロナワクチン接種 5回目 21. 見学者1名受入 25. 利用予定者面談 26. 新規利用者1名受入開始 看護学生実習1名受入 スカッシュトイレ清掃 27. 仕事納めのお食事会 29～冬休み ※浅野Dr往診日…8. 22	12. 春日台特別支援学校 冬物資配達 14. 瀬戸つばき特別支援学校 冬物資配達 15. 豊田特別支援学校 冬物資配達 19. 東濃特別支援学校 冬物資配達 床屋デー 28. 北山地区廃品回収	15. モニタリング 16. 利用者通院付き添い 22. 認定調査 23. 利用者通院付き添い 26. 利用者通院付き添い 27. 利用者通院付き添い 28. 利用者通院付き添い		15. 職員面談 17. 新入職員研修(移乗・てんかん) 28. 会計日 ※職員会議…2. 16. 28		14. 七色の麦 避難訓練 15. 七色の麦、青色の麦 エレベーター点検 21. 青色の麦 クリスマス会 七色の麦 クリスマス会 23. エレベーター点検 26. 個人面談 ※あいかん来所日(青色の麦) …8. 27 ※あいかん来所日(七色の麦) …8. 13. 22. 27	※役員会中止
1月	1～3. 冬休み 5. 害虫駆除 16. 訪問歯科 20. 訪問診療 利用予定者面談 23. 東濃特別支援学校 見学者2名受入 27. 見学者1名受入 28. 利用予定者面談 30. スカッシュトイレ清掃 ※浅野Dr往診日…12. 26	27. R組仲間の会 30. 機関紙配送 31. 北山地区廃品回収	6. 利用者通院付き添い 14. 利用者通院付き添い 16. 計画相談 17. モニタリング 20. 利用者通院付き添い 25. 計画相談 29. 利用者通院付き添い 30. 利用者通院付き添い		6. 主任会議 13. 主任会議 25. あいざれん重度重複部会会議1名参加 30. 加茂特別支援学校授業参観 ※職員会議…13. 27		14. 七色の麦 保護者会 25. 青色の麦 お楽しみ会 ※あいかん来所日(青色の麦) …5. 10. 19. 24 ※あいかん来所日(七色の麦) …5. 19	14. 麦の会 定例会 28. 役員会
2月	2. 害虫駆除 7. 利用予定者移行支援計画相談 8. 新規利用者1名受入開始 10. 見学者1名受入 13. 訪問歯科 17. 訪問診療 利用予定者面談 浄化槽点検 24. 利用予定者移行支援計画相談 25. 職員希望者面談 27. スカッシュトイレ清掃 ※浅野Dr往診日…9	6. 機関紙配送 13. 床屋デー 28. 北山地区廃品回収	6. モニタリング 7. 利用者通院付き添い 9. 計画相談 13. 計画相談 利用者通院付き添い 16. 計画相談 17. 利用者通院付き添い 28. 計画相談		1. 新入職員オリエンテーション 3. 会計日 主任会議 4. 総括会議 20. 新入職員オリエンテーション(移乗) 25. きょうざれん重度重複部会8名参加 ※職員会議…4. 17		2. 七色の麦 節分 17. 七色の麦、青色の麦 浄化槽点検 24. 青色の麦 消防点検 ※あいかん来所日(青色の麦) …7. 16. 21. 28 ※あいかん来所日(七色の麦) …7. 21	4. 麦の会 定例会 25. 役員会
3月	2. 新規利用者1名受入開始 害虫駆除 10. 訪問診療 13. 訪問歯科 16. 見学者1名受入 17. 避難訓練 東濃特別支援学校 高等部学生・保護者現場見学受入 22. 見学者1名見学 23. 東濃特別支援学校 高等部学生・保護者現場見学受入 24. 利用希望者面談 25. 利用希望者面談 27. スカッシュトイレ清掃 エレベーター点検 職員希望者面談 29. 瀬戸特別支援学校 高等部学生・保護者現場見学受入 30. 職員面談 ※浅野Dr往診日…2. 16. 30	17. B組仲間の会 28. 北山地区廃品回収	3. 利用者通院付き添い 17. 利用者通院付き添い 20. モニタリング 利用者通院付き添い 23. 利用者通院付き添い	25.26. 扇山椿祭り出店	3. 会計日 4. 総括会議 16. インボイス制度研修2名参加 24～30. 職員DVD研修実施 (身体拘束及び虐待) 28. カンファレンス 31. 棚卸し /会計日 ※職員会議…3. 17. 31	23. 理事会 評議委員会	3. 体験利用希望者面談 9. 体験利用希望者 青色の麦見学 15. 七色の麦 避難訓練 17. 青色の麦見学会 22. 青色の麦 避難訓練 体験利用希望者面談 27. 七色の麦 エレベーター点検 28. 青色の麦 避難訓練 29. 青色の麦 お楽しみ会 ※あいかん来所日(青色の麦) …7. 14 ※あいかん来所日(七色の麦) …7. 14. 20. 27	4. 麦の会 定例会 25. 麦の会 役員会